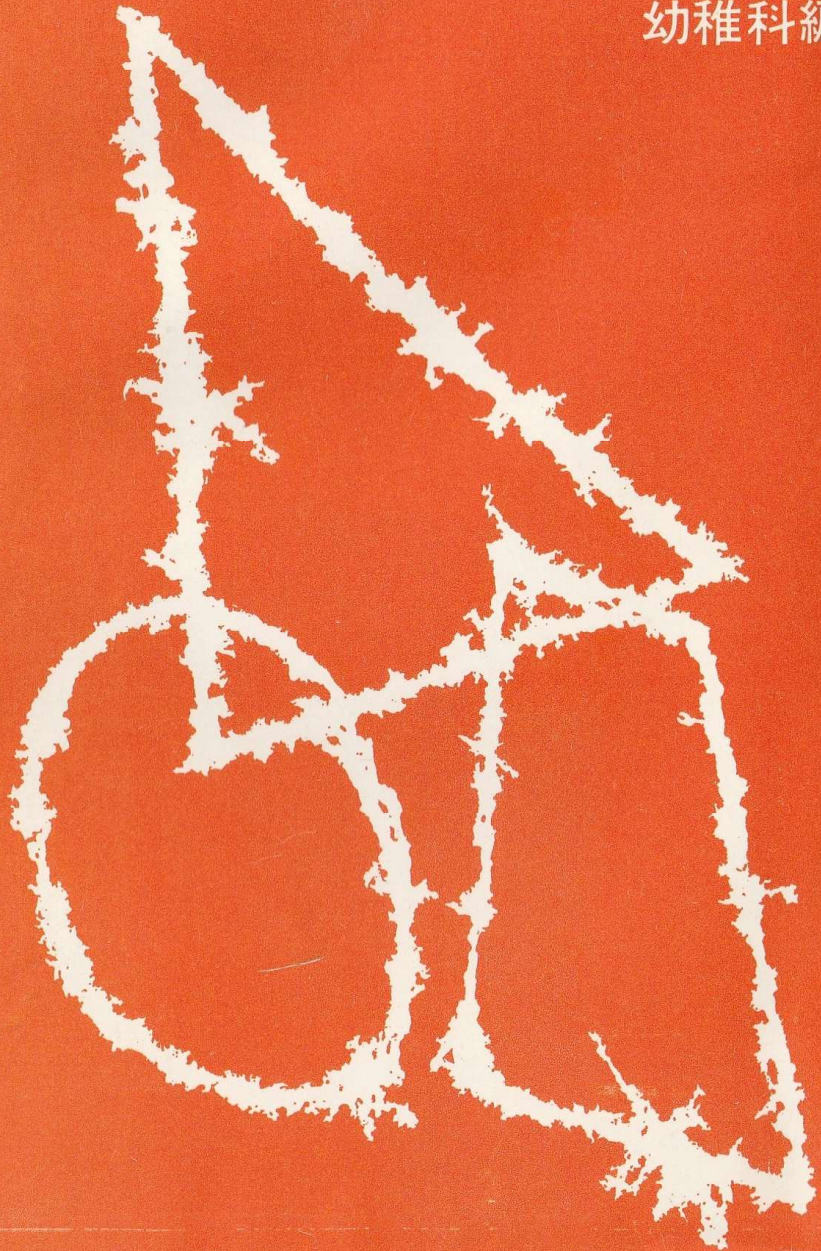


# 教える秘訣

幼稚科編



教  
え  
る  
秘  
訣  
幼  
稚  
科  
編

ハイライト・イン・ブライアント  
ハイライト・イン・ブライアント  
ハイライト・イン・ブライアント  
共著

¥ 700

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団  
日曜学校部

# 教える秘訣

幼稚科編

ハート R. アームストロング 共著  
メアリー V. ブライアント  
伊 藤 頭 栄 訳編

## 再刊のことば

初版の発行以来、特殊な、しかも狭い範囲の読者に限定されながら、なお好評をもって迎えられてきた本書が、このたび再刊されることは嬉しいことである。

この間に、内外の事情は異なり、日本の日曜学校の働きの中にも相当の進歩があったことが認められるので、再刊に当たって内容の再検討の必要性を感じないわけではなかったが、諸般の事情から今回は見送ることにした。そして単に語句の統一、字句の訂正程度にとどめることにした。

なお、在来一冊であったものを二冊に分けて、「教える秘訣 幼稚科編」、「教える秘訣 小学部下級科編」という別々の書物にしたことを御了承いただきたいと思う。これによって、小学部上級科編の発行と共に、幼稚科、小学部下級科編、小学部上級科、中学科とこのシリーズが揃うことになる。

日曜学校関係者の御利用を望みたい。

一九六九年五月

訳者

MANUAL FOR BEGINNER WORKERS  
by Mary V. Bryant  
and Hart R. Armstrong

Copyright by the Gospel Publishing House  
Springfield, Missouri, U. S. A.

Translated and edited by Akie Ito  
Published by Japan Assemblies of God  
Sunday School Department  
1963, 1969, 1979

は し が き

日曜学校教師のための親切な手引書としてこの書をおすすめる。教室の設備、教具の準備など、実にかゆいところに手がとどくように説明してあるのはたのしい。第一線に立つ教師には、原理論はともあれ、このような具体的な手引がほしかったので、いわゆる渴望をいやすものである。

原著は、すでに米国で好評をもって用いられている“Sunday School Workers Manual”と“S・Sシリーズ”であるが、そのうちより特に低学年向の“Beginners”と“Primaries”の二冊を選び、まとめてあげたものである。

本書が、幼稚科・小学下級科を担当されるS・S教師はもとより、児童伝道に関心をもたれるあらゆるかたがたに広く利用されることを願ってやまない次第である。

内容に多少わが国の実情から見て高きを望みすぎると思わないでもないものがあるが、訳者として止む得ないところである。むしろ、これが米国の日曜学校の実情を好まずして紹介するようになって興味深い。訳者は、米国に留学し、特にキリスト教々育に関心をもって勉強された。訳者として最適のかたを得たと思う。

一九六三年四月

日本アッセンブリー教団

理事 細井 修 一

教える秘訣 幼稚科編 目次

はしがき	.....	iii
再刊のことば	.....	v
第一章 幼稚科の教師	.....	1
第二章 生徒	.....	12
第三章 適切な環境と設備の計画	.....	26
第四章 生きた器具―職員	.....	43
第五章 日曜学校の時間	.....	49
第六章 学課の準備	.....	59
第七章 授業	.....	71
第八章 礼拝	.....	80
第九章 礼拝への導入	.....	87
第十章 組織と訪問	.....	97

## 第一章 幼稚科の教師

「小枝は曲げられたよう伸びていく」という英語のことわざがありますが、これは幼稚科の子供たちに、そのままあてはまるものです。

幼稚科の子供たちはたとえ小さくとも、かれらを導くということは、決して小さな働きではありません。主イエスは、「これらの小さいもののひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海の深みに沈められる方が、その人の益になる」とおっしゃいました。しかし、「わたくしたちは日曜学校の教師として、どのようなことをして、子供たちをつまずかせてしまうのでしょうか」と、ある人は疑問をもつでしょう。それは、勉強する機会をないがしろにしたり、神がわたくしたちに委ねられた、尊い日曜学校の働きを過小評価して、自分自身を向上させるように努力しなかつたりすることによるのです。

幼稚科の教師になるということは、日曜だけ仕事をすればすむというものではありません。それは一週間の七日間全部を費す働きなのです。

それでは、この働きをする日曜学校の幼稚科教師は、どのような人でなければならないでしょうか。理想的な教師の条件を次に記してみましよう。もし、その中の幾つかの重要な条件、あるいは資格が、あなたに欠けている場合、あなたのクラスの小枝たちは、まっすぐに伸びていけないのです。

## 教師としての条件

### 一、クリスチャンであること

まず、幼稚科の教師にとって、一番大切なことは、心の中ではっきりと、主イエス・キリストを自分の救い主として体験していることです。キリストによるこの新生の体験をもっていない人は、教師として全然認めることができません。もし、盲人が盲人の手引をするならば、二人とも、溝に落ちてしまうでしょう。ですから。霊的に盲人である人に、まだ霊的な目が開いていない子供たちを、導かせるわけにはいかないのです。

### 二、献身

幼稚科の教師に必要な第二の条件は献身ということです。幼稚科のクラスの責任をもたされてから、それがいかにもむずかしいものであるかを知り、そのための準備にどれだけ時間がかかるかを知り、また、小さな子供たちに一生懸命教えても、自分の出世が望めるものではないことを考え、突然、自分はこの働きに召されているのではないと言って、やめてしまう人が時々おられます。しかし、本当に献身している教師たちは、様々な困難を克服し、主のために学課を準備し、有名になることや、人目につくような役職につくことを願ったりしないものです。

### 三、愛

第三に必要なことは、幼い子供たちに対する本当の愛をもっているということです。これは感情的な、その場限りの愛ではありません。大抵の人は、こぎれいにして、行儀のよい、丸々と肥った四、五才の子供たちを見れば、かわいいと感じ愛するものです。しかし、子供に対する本当の愛は、神のためにすべての子供を求めることです。そして、その子供たちのためには、自分の力も時間も、一切犠牲にしても、子供たちを訓練し、かれらを神の教えられた歩むべき道に歩ませるように努力するのです。これ以下の愛では役にたちません。父なる神は、わたしたちが、自分たちの最善のものを、これらの小さい者のために与えることを求めていらっしゃるのです。

### 四、忍耐

幼稚科のクラスほど、忍耐の必要なところはないでしょう。そこにいるのは幼稚科、すなわち、幼稚な子供たちなのです。この子供たちは、いつも、あらゆる物に興味をもって、絶え間なく質問をします。忍耐がなければ、この、次から次に出てくる質問に耐えられるものではありません。クリスチャンであり、献身をしており、子供たちに対する愛をもってしても、もし忍耐をもっていないならば、わたくしたちは、

忍耐をもち、また愛して下さる天の父なる神を、子供たちに十分に教えることはできないでしょう。

### 五、親しく、明るい態度

これは、あまり重要な条件とは思えないかもしれませんが、けれども、子供たちは、花が太陽に応じるように、愛や、親しい態度に対して、すぐに反応を示すものです。小さな子供は大抵幸福な明るいものです。ですから信仰生活を、やっと、仕方なしに営んでいるような教師や、主の証しをするのにも、つまらなそうな、恵まれない顔をしている人たちには、どうしてもついでいくことができません。

同じ年令のクラスで、同じ学課を同じように準備した教師たちが教えても、嬉しそうな、明るい態度をもって教える場合と、そうでない場合とでは、全然、違ったクラスができあがってしまいます。

### 六、おだやかな態度

おだやかな態度をもった教師とは、受身的な、消極的な教師のことではありません。幼稚科の生徒たちは、何よりも優って、活気があり、あらゆることに興味をもつような教師を必要としています。しかし、その半面、小さな子供たちを取り扱う教師たちは、心の中に静かなおだやかな態度をもっていて、すぐに騒いだりあわてたりしないような人でなければなりません。非常に神経質で、何かあると、すぐに興奮してしまうような人のそばにおりますと、あなた自身も何かそのような感じになってくるでしょう。その逆に、静かな、落ちついた態度の人のそばにいる時には、どんな問題が起きても、何か落ち付いた感じ

をもつことができるのです。このようにわたくしたちの心の態度が、子供たちを非常に左右していくのです。

あるおかあさんが、自分の子供が大変神経質で、すぐにいらいらしたり、気分が落ちつかなくなることに気がつきました。このおかあさんは、外見上、非常に静かで、落ちついている人のように見えました。けれども、このような問題について経験のある、ある人がこのおかあさんに、「あなたは落ちついていらっしゃるようですが、実は心の中では、大変神経質で、いろいろ心配ごとをもっていらっしゃいますね。あなたは心配性ですね」と尋ねました。おかあさんは驚きました。けれども、本当にそうであることを認めました。そして「それで、あなたのお子さんが神経質で、心配性である理由がわかりました。あなたは外見上、大変静かで、落ちついていらっしゃるようですが、心の中にあるその感情が、子供にすぐ汲みとられてしまっているのです」と言われて、このおかあさんは自分自身の態度、心の問題について取り組み始めました。

もしわたくしたちが、よい幼稚科の教師になろうと思うならば、心の中に落ちつき、平和というものを神にあつて、もたねばなりません。

### 七、想像力

これは四、五才の子供を取り扱う教師にとって、ぜひ無くてはならないものです。もし想像力が無かつ

たならば、小さな子供と一緒に「ごっこ遊び」もできませんし、尊い神の真理を子供たちが理解できるような方法で示すこともできません。

子供たちには、彼らが住んでいる想像の世界の思いつきを利用して、神の言葉を正しく十分に理解させてあげなければなりません。想像の世界で、神の言葉を説き示すことができるのは、想像力のある教師だけなのです。

たとえば、あなたのクラスの子供が、日曜の朝、来るとすぐ、オルガンのかげにライオンがかくれている、と言ったとしましょう。「嘘おっしゃい、ライオンなんかいませんよ」と一言のもとに否定してしまうのは、賢い教師とは言えません。しかし、賢い教師は、「本当にライオンがいると思う？ それでは、先生と一緒に行って、調べてみましょう」と言って、手をつないで、そのオルガンの後ろをのぞきに行くでしょう。もちろんライオンはいないのです。そこで賢い教師は、「ねえ、知っている？ 昔あるところに、ライオンのすぐそばまで行っても、けがをしなかった人がいたのよ」と言って、そこから獅子の穴に投げ込まれたダニエルの話を始めるようにするのです。これでこの子供の注意を完全にひくことができるはずです。この子供は、多分、本当にオルガンのかげにライオンがいると思ったのではないでしょう。ただ自分の想像したことを、ふざけて言ってみただけなのです。しかし、想像力のない教師なら、この小さな子供の心という良い土地に、神のことばを植えつけるのに、またとない良い機会を失ってしまうかもしれません。

## 八、理 解

良い幼稚科の教師は、自分の教えている子供たちについて、よく理解しているはずですが、もちろんあらゆる機会を用いて子供たちのそばにいるようにして、この子供たちを観察することです。自分の子供、家族、新戚のだれかの子供、または友人や近所の人の子供など、その年令の子供ならだれでもよいのです。そして、その子供たちと遊んで、はねて、大きな声で笑ってごらんなさい。寝る時間まで一緒にいてあげて、できたら寝かせてあげてごらんなさい。子供に関する本を読み、児童心理学を勉強することは、有益であり、大切なことです。しかし、このようにして子供たちと一緒にいて、観察することによって、あなたは、はるかに彼らを良く理解することができます。

たとえば、家庭にも、親戚にも、どこにもこの年令の子供たちがいないという場合でも、教会に来れば、必ず見つけることができるでしょう。ですから、その子供たちと親しくなるべきです。そのためには、できたらかあさんたちの承諾を得て、子供たちとどこかに遊びに行ったり、散歩につれて行ったりしてもよいでしょう。このことによって、あなたは予想以上に彼らを理解できるようになります。

こう申ししても、子供に関する本を勉強することが、不必要だと言うものではありません。それは良いことであり、大変必要なことなのです。なぜなら、そのような本は、多くの体験を集めて、でき上がった研究の結果をまとめて記したのだからです。



子供たちを指導する教師は、信仰的にかなり成長した人でなければなりません。無思慮な校長や牧師たちは、時々、「だれそれさんは、救われてまだ間もないけれども、何かして貰った方がよいから、幼稚科のクラスでも、もたせてみよう。別に害にならないだろう」というようなことを言います。

しかし、庭師たちでも、まだ新参の見習に責任をもたせて、仕事をさせるでしょうか。たとえ、その見習がどんなに熱心で、やる気が十分あったとしても、もし経験がなかったら大変なことになります。そのような人がいじった木は曲ったままになってしまいかも知れないし、もう、伸びていけないばかりか、枯れてしまいかもしれません。子供たちは、偉大な庭師であるわたくしたちの主にとって、大切な存在です。この大切な子供たちをわたくしたちは新参の見習のような人にまかせることができるでしょうか。

子供たちは今、人格形成途上にあるのです。ですから、かれらは教師の中でも最高のレベルの人たちの手に委ねられなければなりません。

しかし、教師の信仰的な成長の度合は、必ずしも、信仰年数の多少を意味しません。若い少女たちでも、すばらしい教師になることがあります。ですから、何才になったら幼稚科の教師になれるという規則を定めることはむずかしいのです。信仰的に成熟している人ならば、十八才の人でも中年を過ぎた人でも、同様に幼稚科の良い教師になることができます。けれども一つ注意したいことは、あまり若い女の子たちを

教師にしないということです。それは普通一般に、十代の初期の少女たちは、あらゆる面で、まだ完全に成長していないからです。かれらは、まだ神のこぼを真に理解したり、種々の問題が起きた時に、それを適当に処理したりするには、十分な背景（人世経験、信仰経験）をもっていないのです。

#### 十、思慮深さ

最後にあげましたが、これは決して最小の、不必要な条件というわけではありません。

ある良く組織だてられたアメリカの日曜学校でのことです。幼稚科のクラスでは、子供たちにそれぞれ、自分の誕生日を迎えた週の日曜日に、自分の新しい年の数だけ特別献金をするのが習慣になっていました。誕生日を迎えた子供は、皆の前に座って、誕生日の歌を歌ってもらいます。それからお金を、生徒全員が大きな声で、一つ、二つと数えるのにあわせて、自分の年の数だけ献金箱に入れるのです。ところが、一人の女の子が、その日を大変待ちこがれていました。そして、とうとうその日がきました。おかあさんは、その朝、銅貨を五つもたせたのですが、普通の集会献金を別にもたせるのを忘れてしまいました。歌を歌って、おいのりをしてから献金をすることになりました。いつものように献金袋がこの子の前に回ってきました。もちろん、この子は献金を入れませんでした。ところが、後ろに座っていた教師は、五つの銅貨をしっかり握っていた手を、無理やりにあけさせて、それを全部、献金袋の中に入れてしまいました。こうして、折角の誕生日はめっちゃめっちゃになってしまいました。教師は後でこのことを知り大変悪かっ

たと思いました。しかし、この子供にとって、これは大きなショックでした。そしてもう日曜学校には行かない、とさえ言い出したのです。ある人は、こういうことは子供たちもすぐ忘れてしまうから心配しなくてもよいと言うかもしれませんが、実にこの話は、その時の子供が二十五才になった時に話してくれたことなのです。

この失敗をした教師は、もしそれがもっと上級の子供か、おとなだったら、無理やりに献金させたりはしなかったでしょう。それなのに小さな子供には、なぜこの子供がそのお金をかたく握っているのかを調べようと思わないで、無理やりにお金を入れさせてしまったのです。

わたくしたちは、自分に委ねられている子供たち一人一人が、立派な人格をもったものであることを覚えて、おとなを取り扱おうと同じように丁寧に取り扱いたいものです。

以上あげた教師の資格は、あまりにも標準が高いようにも思えるでしょう。しかし実際にこの標準は高すぎるのでしょうか。主イエスは三年間の働きのために、三十年間を準備に費やされました。その主は、わたくしたちが神のことばを学び、真理の言葉を正しく教えることができる恥じるところのない錬達した働き人になることを求めていらっしやいます。

これらの条件を自分に照らして見るとき、あなた自身、足りないところに気付くでしょう。しかし、あなたはそれで落胆する必要はありません。それは、わたくしたちには、わたくしたちを愛して下さる、すばらしい天の父がいらっしやるからです。かれは良い教師たちを、さらに良い教師となるように助けて下さ

るのです。わたくしたちは、自分の足りない点を見るにつけ、知るにつけ、なお、キリスト・イエスによって与えられた高い召を全うするように、その目標に向かって前進して行こうではありませんか。

## 第二章 生徒

幼稚科の子供たちは、いつも自分勝手に行動しているように見えます。かれらはおとなと同じように、それぞれの人格をもっているのですから、一つの型にはめこんで、子供はこのように行動すべきである、ときめつけることはできません。しかし、四、五才の子供たちに共通の、ある種の根本的な原則というものはあるのです。各年令ごとに、それぞれ特徴があるように、この年令の子供にも、他の年令の子供とは違った特徴が見られるのです。もしわたくしたちが、この根本的な事実を認識し、その特徴を上手に生かして、かれらを指導していくなら、わたくしたちは多くの無益な、——そればかりでなく、かえって有害な——働きをしなくてもすむようになるはずで

### 肉体的特徴

一、肉体的に言って、幼稚科の子供の間には大きな差があります。それは、この年令の子供たちが大変急速に成長するからです。ですから四才児と五才児では、肉体的にかなりの相違が見られます。

幼稚科の子供たちは、急速に成長するため、非常に活動的です。ですから、良い教師はかれらを長い間、

じっと座らせたりいたしません。幼稚科の子供にとって、病気でもない限り、静かにしているということはほとんど不可能なことです。わたくしたちの天の父は、かれらをそのように活動的に造られたのです。

二、前にも述べたように、あなたのクラスの子供たちは、それぞれ違うでしょうが、全体的に見て、四才児はより積極的だと言えます。かれらは、自分の思ったことをしなければ気がすまないのです。善悪についてのはっきりした考えが、まだでき上がっていませんから、自分のしたいことは一番近道な、一番簡単な方法でやりとげてしまおうとします。しかし、五才になる頃には、自分自身を抑制することをおぼえはじめ、四才の時ほど積極的ではなくなります。

大抵の日曜学校には、あまりに活発なため、何もかも滅茶苦茶にしようするような子供が一人くらいはいるものです。そのような子供をどうしたらよいのか、教師はしばしば悩まされます。しかし、その子供に何かする仕事を与えると、解決できることがよくあります。あまり活発な子供は自分の感情を吐き出す何かを必要としているのです。ですから、教師の手伝いをさせることによって、この吐け口を見い出すことができるかもしれません。

### 知的、精神的成長

幼稚科の子供の知的、精神的成長には、目を見張るようなものがあります。ちもろん、この成長は、そ

の環境に多分に左右されます。そこで教師は、環境的にあまり恵まれていない子供たちも、自分のクラスにいくらかいることを覚えて、常に全部の子供たちが話を困難なく理解できるように導いてあげなければなりません。

一、知的に幼稚科の生徒たちは急速度に成長していきます。その証拠にかれらの言葉がふえていきます。注意して聞いてみると、四才児は種々な言葉をおかした方法で使っているのに気がつきます。それはかれらが言葉に真面目な興味をもっていて、言葉の数が毎日のようにふえていくからです。四才児の言うことにおかしたことがあるのは、言葉をおぼえても、その言葉の使い方にまだ慣れていないからです。教師は、たとえかれらに変な言葉使いをしても、決して笑ってはいけません。かれらは笑われるのがきらいですから、もし笑ったりすると、あなたはかれらの信頼を失うことにもなりかねません。もしわたくしたちおとなが、五百語ほどの言葉の数を二年間の中にふやそうとするならば、大変なことです。そしてわたくしたちは、しばしばおかしい方をするでしょう。四才の子供があなたのクラスに入ってきた時から、小学校に入る六才までの間には、約六百の新しい言葉を自分のものにしていくのです。(註・久保良英氏研究山下俊郎著「児童心理学」六七ページ)

五才児は四才の時よりも、遙かに正しい言葉使いができます。しかし、四才の時のように、たくさんしゃべりません。それは、五才児は早く話すこともできないのですが、また、四才の時よりも思慮深くなっているからです。

ここで注意することは、幼稚科の子供がむずかしい言葉を使っても(時には正しく使いわけても)、本当に理解して使っているのだと思つて、自分たちもそういう言葉を使って教えるのも大丈夫だと考えないことです。どの家庭にも、その家庭によつてつかいなれた言葉があります。子供は家庭内でよく聞かされているそれらの言葉を意味もさとりなまま無意識に使うようになります。しかし、わたくしたち教師は、ある子供がわかるからと言つて、他の子供たちのわからないような言葉を使つてはなりません。わからない子供たちは、そこから間違つた考えかたをして、取りかえしのつかないことになるかもしれません。

二、幼稚科の子供たちの知的特徴として、最も顕著なことは、好奇心の強いことです。かれらは物をおぼえるように仕向けられる必要はありません。なぜかならば、かれらはいつも、知りたいと思つているからです。そのことは、たえずわたくしたちに向けられてくる数多くの質問によつても明らかです。この質問攻めに困つた教師たちは、何とかして質問を封じようと思つますが、それでは本当の教師とは言えません。物事を教えるのに最も良い機会は、子供たちがその問題について興味をもつて質問してきた時です。その時に彼らは解答として与えられた真理をすぐ受け入れるでしょう。

小さな子供たちは、生まれつき、根掘り葉掘り新しい事を知りたいのですから、教師は多くの知識をもつていなければなりません。神について、ほんの少ししか知らないで、幼稚科の子供を教えることができると思つてはならないのです。普通の小学校においても、教師は生徒に教える知識よりも、遙かにほう大な知識をもつことを要求されています。まして、神のことについて教える日曜学校の教師は、いかばかり

でしょうか。幼稚科の子供たちが好奇心をもっていることを覚え、かれらの質問にいつでも答えることができるように、十分な知識をもつようにいたしましょう。そして、いかなることがあっても、かれらの質問の口を閉じさせるようなことをしないようにして下さい。健康な好奇心や、質問なしに本当の学問は無いのです。

ですから、わたしたちは返って、かれらの質問を利用して、子供たちの中に神がかれらを愛しているという真理をしっかりと植えつけるように指導していくべきです。わたくしたちの働きは、幼ない質問者たちに神が愛しておられるという事実を教えることです。愛は愛を生みます。もしかれらが、本当に天の父がかれらを愛しておられることを知ったら、かれらはその愛に応じていくことでしょう。

三、幼稚科の子供たちは生き生きとした想像力をもっています。四才児は多分、最高の想像力をもっていますが、五才児は幾分緩慢になってきます。しかし、それでもなお、十分な想像力をもっています。教師たちはこの点を注意深く取り扱う必要があります。

幼稚科の子供はすぐに、「ごっこ遊び」を始めます。かれらは何かのまねをすることによって、自分がそのものになったように思うのです。ですから、想像と事実がしばしば混同されてしまうようなことがあります。ただこの想像を事実のように話したりすると、おとなは「それは嘘だ、嘘を言うてはいけない」と、きめつけるのです。しかし、教師はこの点に注意して、その子供が本気でだまそうとしているのか、それとも自分で強く想像しているのか、事実か想像か区別がつかなくなっているのかを見出し出すようにしな

ればなりません。そして祈り深く、また注意深く、想像することと事実とは違うことを示すようにすべきです。

決して子供たちの想像力を鈍らせてはいけません。それは大変、貴重なものです。わたくしたちは想像力があるからこそ、他の人々の体験を理解することができるのです。イエスの足元に香油を注いだ婦人の話を、わたくしたちは想像力を用いながら聞いて、その中にとけ込むことができます。想像力を上手に利用することによって、わたくしたちは子供たちが神をより良く知り、理解できるように導くことができます。

四、幼稚科の子供たちにとって、共通の特徴として、自己中心ということが挙げられます。小さな子供たちの世界は自分を中心に回転するのです。その子供が特に一人っ子である場合、この傾向が一層強いのです。しかし、その子供を利己主義だと言って責めたり、叱ったりしてはいけません。その代りに、クレヨンを仲よく使うようにさせたり、子供がしている小さなことをほめてあげたりして、他のものに思いをかけてあげることが奨励するのです。

もし、あなたのクラスに他の人を助けてあげる気持のない子供がいるなら、人助けをした子供の話を、作り話でもよいからするのです。すると、その子供たちは、あなたの、その間接的な提案にすぐに応じてくるでしょう。わたくしたちは幼稚科の子供たちを徐々に、注意深く、他の人中心に、そして神中心に生活するように導いてあげるべきです。これもわたくしたちの大切な働きの一つなのです。

五、さらに幼稚園の生徒に共通な点は、かれらがまねをするということです。わたくしたちがもしこのことを意識するなら、わたくしたちは子供たちの前に恐れとおののきをもって出なければならぬでしょう。わたくしたちが行動するように、もし子供たちが行動したならばどうでしょうか。子供たちがわたくしたちと同じように話すようになっていても良いでしょうか。さらにわたくしたちが感じ、考えるように、子供たちが感じ考えるようになっていても良いでしょうか。

幼稚園の子供たちは、どのように行動したら良いのか知らないのです。本能的にかれらは、年長者を見て、その通りにまねて行こうとするのです。カーボン紙でとった複写の文字を消す時に、どこかを汚さずに消すことはほとんど不可能です。原文（オリジナル）のわたくしたちが間違っていたために、それを写しとった子供の生涯が曲げられ汚れることがあってはなりません。わたくしたちは子供たちの前での行為を注意するだけでなく、心の中の生活を神の求めておられるように保つよう注意しなければなりません。小さな子供たちほど嘘をす早く感じとるものはありません。わたくしたちの心の中にあるもの、本当のわたくし自身というものを、かれらはどういうわけか、すぐに感じとってしまうのです。

もし幼稚園の子供に愛を教えたいと思っても、自分自身が愛をもっていないならば、わたくしたちはやまましい鐘や騒がしい鏡鉢と同じなのです。教師たちは教える学課の模範そのものでなければなりません。子供たちは無意識のうちに、あなたの態度を吸収して成長していきます。あなたは子供たちに、一生話し続けても教えられないようなことを、自分自身の信仰と生活をもって教えることができるのです。

六、次に考えることは、かれらは信じやすいということです。これはかれらの最も愛すべき特徴の一つです。幼稚園の子供たちは、わたくしたちが話すことを、なんでもそのまま信じてしまいます。そこで、わたくしたちは、この一生の中で最も信じ受け入れやすいこの機会を善用して、神の真理をその心と頭に植えつけるように努力すべきです。

かれらは疑うことを知りません。もし「神様があなたを造って下さったのですよ」と言い、また「神様は世界を愛していらっしゃるのです」と言うなら、子供たちはそのまま信じます。こうして幼ない時に覚えた真理は、子供の中にしっかりと植えつけられ、やがて不信仰な人々によって攻撃された時に、どれだけの力を発揮するか、だれも予想することはできないのです。ここにまた、子供たちが、はっきり理解できるように話してあげなければならぬ理由があるのです。わたくしたちの用語は子供にとって、良くわからない場合があるのでしょいか。

ある幼稚園の子供が教師に、毎晩イエス様にお話して寝なさいと教えられました。ところがその子供は、まだ十分に霊的な意味で、お祈り（イエスさまにお話する）という意味をしらないのです。その晩おかあさんは、その子を床にいたあと、子供がなにか一人でぶつぶつ言っているのを知って、そつと戸のかけから立聞きをしました。ところが驚いたことに、その子供は繰り返し、繰り返し、「もしもしイエス様。もしもしイエス様」と言っているのです。もちろん、おかあさんは入って行って、「なぜそんなことを言っているの」と聞きました。するとその子供は、「だって日曜学校の先生が『おふとんに入ってイエス

様にお話しなさい』って言ったんだもの」と答えました。教師はこの子供に、イエス様にお話をするというところが一体なんであるかを詳しく説明してくれなかったのです。そしてまた、だれも、イエスがはっきりした声で返事をしてくるかどうかについても説明してくれなかったのです。

こういう信じやすい幼稚科の子供たちに、わたくしたちは注意深く、できるだけ正しいはっきりした印象を与えるように心がけなければなりません。

ある幼稚科の生徒は、おばあさんが亡くなった時に、人々から、お墓にはおばあさんの体だけ入れるのだと教えられました。それはもちろん、魂は天国へ行つて、肉体だけ葬るという意味だったので。葬式後、しばらくして、家族の者たちは、この子供が、おばあさんは首と体を切り離されて、体だけはお墓に入れられたのだ、と考えていることを知って驚きました。子供は、たしかに「体だけ葬る」と言われたので、首は体から切り離して、別の所にあるのだらうと考えたのでした。この子供は言われた通りのことを信じたのですが、説明が不足していたために、本意が伝えられなかったのです。わたくしたちはすべてのことについて、完全にはっきりと、子供たちのこの信じやすい特徴を利用して、語り、教えていかなければなりません。そして神についても、良い、しっかりとした土台を築いてあげる必要があるのです。

## 社 会 性

一、社会性においては、幼稚科の生徒はまだ十分に成長していないというのが真実でしょう。幼稚科の

子供たちは、自分に直接関係のない人には、あまり興味が無いのです。かれらは、他の人々にもやはり権利特権というものがあって、互いにそれを尊んでいかなければならないのだということを、まだ学びとっていません。しかし徐々に、また注意深く、子供たちは他人の権利について目覚めるように指導されていく必要があります。

しかし、この社会的な感覚は、一朝一夕に発達するものではありません。四才児たちは、大勢のグループであまり遊びません。かれらは普通一人または二人以上の人と同時に交わることができないのです。五才児も五人以上のグループの中では、あまりよく遊べないようです。幼稚科の子供たちは人と人との関係においては、やはりその名の通り、幼稚科なのです。

## その他一般的特徴

一、幼稚科の子供は総体的に、非常に自慢をします。これは四才児の場合に特に顕著です。自分が関係をもつ殆んどすべてのもの、たとえば、自分の家、おかあさん、おとうさん、ブランコ、すべり台、頑具など、何でも自慢をしたいのです。

これもまた、注意深く、絶えず機会をねらっている思慮深い教師たちが、すぐに利用できる点です。自分のおかあさんがすばらしいおかあさんだと自慢した子供に、「そうですよ。そんなに良いおかあさんを下さった天の神様は、なんてやさしい良いかたなんでしょうね。きっと神様は君をかわいがって下さるか

ら、そんな良いおかあさんを下さったのでしょうね」という風に話してあげることが出来ます。このようにして、賢い教師は「教訓に教訓、規則に規則、ここにも少し、そこにも少し」というふうに教えるのです。天の父なる神が子供たちを愛して、いつも思いをかけていて下さることを示されることは、子供にとって火にすばらしいことなのです。

二、幼稚科の子供たちは大抵理窟がわかりませんし、また理窟に対して大変敏感です。ですから、日曜学校などでは、きめられた規則の理由を説明して、これを納得させることが出来ます。

だれかが話をしているのに、やたらに話をしたがる子供には、「良男君、信子ちゃんが今、お話しているのでしょう。もし信子ちゃんがお話している間に、あなたが話したら、二人とも言っていることがなんだかわからないでしょう。もし信子ちゃんに先にお話して貰えば、みんな、信子ちゃんのお話をよく聞けるでしょうね」と、正しく理窟をわかりやすく、順序だてて、説明してあげます。「黙りなさい。聞えないから静かにしなさい」というよりも、ずっと良いでしょう。

おとなも規則ができたときには、その理由を知りたいのですから、子供にもそれを聞く権利はあるはずです。子供に理窟を説いて、説明してあげる教師は、きっと子供から十分な協力を得ることが出来ます。

三、幼稚科の子供は、なにを頼んでも、自分にはそれができないからといって、応じないことがあります。

たいてい、四、五才の子供たちは、お手伝いが好きなので、喜んで種々仕事をしてくれるものです。ところが時には、いつも手伝いの好きな子供が何かを頼んでも、断わる場合があります。その理由はたいてい、自分にそれができないと考えるからです。断わる時に、子供たちは「できない」と言いません。ただ「嫌だ」と言うのです。

わたくしたちは、子供たちの能力以上のことを要求しないように、注意しなければなりません。

四、幼稚科の子供たちはよく人を非難します。アダムとエバが、エデンの園で互に罪のなすりあいをした時、以来、人間の中には、常にこのようなことが行われてきました。

しかも、これが五才児の中に特に著しく現れるのです。何か間違ったことをした時、または失敗をした時、小さな子供たちはすぐに、自分のそばの人々のせいにするのです。しばしば家庭では母親が悪者にされてしまいます。日曜学校では教師も槍玉にあげられます。しかし、子供たちは決して憎しみや、悪意があつて、そうするのではないのです。

五、四、五才児は赤ちゃんのように取り扱われることが嫌いです。「おにいさん」「おねえさん」と言っ

て取り扱うと大変喜びます。ですから、子供たちを赤ちゃん扱いする教師は、大変嫌われてしまいます。もちろん、幼稚科の子供に対して、おとなに使うような言葉を使うことはできません。しかし、おとなに対すると同じような態度で臨むことはできると思います。幼稚科の子供も、多くの可能性をもった、知



的な存在であることを覚えて、取り扱ってまいりましょう。

## 生徒の成長

ここまで、わたくしたちは、幼稚科の子供たちの主な特徴と傾向を学んできましたが、ここで、これらの子供たちが幼稚科にいる二年の間に、どのくらい成長するものかを調べてみたいと思います。

一、二年間に、幼稚科の子供たちは、日曜学校の中で、して良いことと悪いことを学びます。そして最後には、大した困難もなく、必要な規則を守るようになります。

二、社会性本能が徐々に成長し始め、同時に一人以上の子供たちと、あまり争うことなく遊べるようになってきます。

三、自己中心であったのが、他人を中心として考えられるように導かれていきます。これは、幼稚科を終る頃、子供たちは、いつも自己を否定して考えるようになるというのではありません。実際にそれは無理なことです。しかし、その時までにかねは、少なくとも自分の周囲にいる人々のことまで考えるようになっていきます。

また、わたくしたちは、幼稚科の生徒全員が、ここまで成長するとは申しません。おとなと同じように、

子供にもそれぞれ個人差があるからです。しかし、一般的に言って、幼稚科の子供たちは、小学校に入るまでに、この程度に成長するべきだと思われれます。

幼稚科の子供たちが、二年の間に成長すると言っても、実際かれらの中に、あなたの働きの本当の結果を、その期間中に見いだすことはむずかしいでしょう。ある教師は自分の蒔いた種の実を刈り取るのに何年も待たなければなりません。しかし、天の父は、収穫をする人の働きだけを見られるのではなく、その遙か以前に、尊い神の言葉の種を蒔きにでいった人々のことをも、ごらんになっっているのです。

落胆するような時に、よく覚えて下さい。非常に高く、人々の驚嘆の的となるような立派な建物にも、やはり堅い、頑丈な土台があるのだということを。その堅い、何の飾り気もない土台を見る時に、無気味な働きをしたように思っ落胆する人がいるかもしれません。しかし、堅い土台のない建物、すなわち、あなたの奉仕にあずかっていない、土台のない人生の未来は悲しむべきものです。

わたくしたちは、神のために、しっかりとした人生の土台造りに誇りをもって進みましょう。

### 第三章 適切な環境と設備の計画

子供たちの研究をしている人々は、環境と遺伝のどちらが人間形成において、より重要な立場を果すのであるか、ということを決めかねています。たとえ、それがいずれであっても、環境というものが、わたくしたちの人間形成において、重要なものであることは間違いありません。

子供たちの遺伝については、わたしたちは、第二の問題にして、まず環境というものに目をつけてみましょう。かれらの環境、特に日曜学校における環境は、わたくしたちの責任です。幼稚科の時代は、子供たちが無意識の中に、かれらが一生もっていくところの人生のありかたというものを学びとっていく時代であることを覚えなければなりません。ですから、わたくしたちは、できるだけ子供たちのために、神の家の中に、楽しく、魅力的な礼拝の場所を整備してあげる必要があるのです。

もし、神の家について多くの子供たちに、自分たちのクラス（部屋）は、ほかのどのクラスよりも小さくて暗い部屋だという先入観を与えたらまことに悲しいことです。もちろん、幼稚科の子供たちは、自分たちの環境について、様々な不満を陳述するような年齢ではありません。しかし、問題は、子供たちが教会に対して、どのような考えをいただき、人生の歩み出しをはじめていくかということです。わたくしたちは、かれらに神の家は汚ない、そして、うす暗い、すすけた場所であるという印象を与えたいで

しょうか。それとも神の家は楽しい場所であるという感じを持たせてあげたいでしょうか。この問題は部分的でありましようが、わたくしたちが幼稚科の生徒のために整備する場所の状態によるのです。

#### 幼稚科の部屋

わたくしたちはすべての日曜学校が、幼稚科のために理想的な環境を新しく作ることができないことをよく承知しています。しかしながら、わたくしたちは、すでにあるものを最高度に利用していくことができます。

一、理想からいえば、もちろん幼稚科独自の部屋がほしいのです。それは一階にあつて、子供たちが風邪をひきやすいような、うす暗い湿った部屋でないことです。四才児は、特に風邪をひきやすいようですから、わたくしたちは少くとも、風邪の細菌が繁殖しないような乾燥した部屋を選ぶようにしたいものです。

二、幼稚科の部屋は、できるならおかあさんたちがいる部屋に接続しているか、あるいはその近くにほしいのです。幼稚科の教師なら、良く知っていると思いますが、時にはおかあさんを急いで呼ばなければならぬような事態が生じるのです。また、おかあさんがそばにいる、近くにいるとわかれば臆病な子供

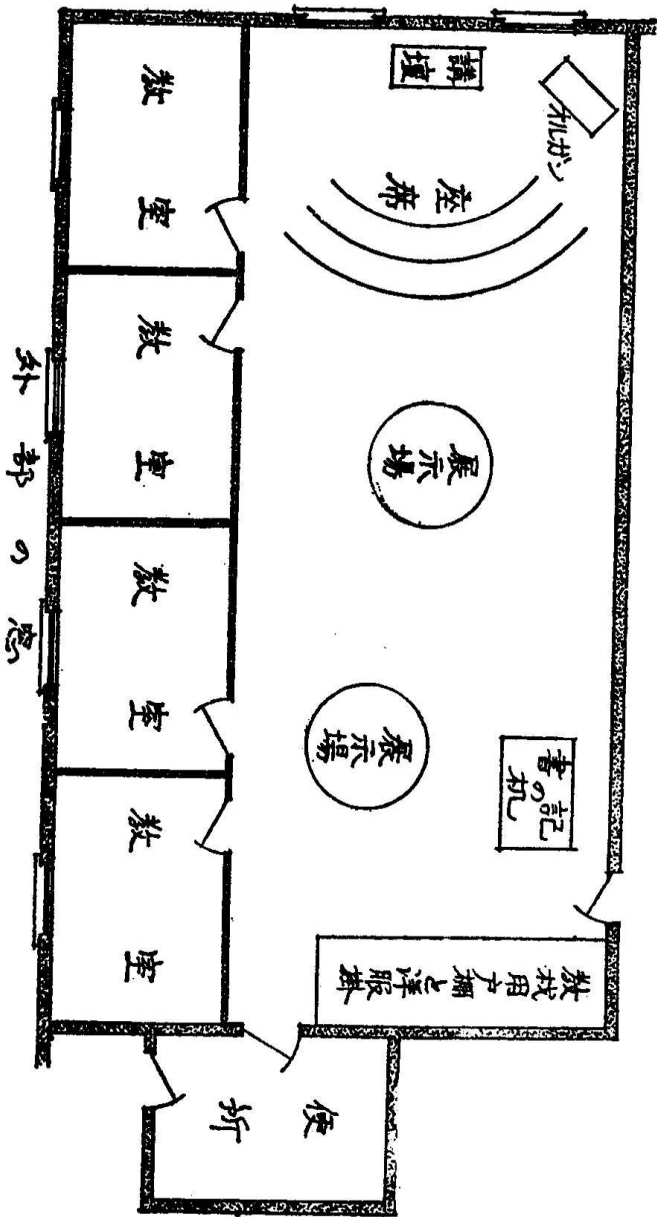
たちも、自信を得る、ということも考えられます。

三、部屋の大きさは、ある教会では、理想のものに及びもつかない小さなものであるかも知れません。そこを教師が、与えられた範囲で、最高度の効力を発揮するように工夫し、努力しなければならぬわけです。しかしながら、できるならば、子供たちに必要な日曜学校の時間中に行われる種々の活動、たとえば、行進、物語を自分たちで行ってみるものまね、歌を歌ったり遊んだりすることなどが、できるような広さを与えたいものです。また、クラスが大きくなることを考えて、それだけの余裕をもたせたいものです。さらに他のクラスの邪魔にならないように、互に離れた方がよいでしょう。

部屋の形は、普通長方形が使いやすいようです。それはいくつかのクラスに、壁やカーテンなどで区分することができるところです。

場所があまりない、ある日曜学校の教師は、限られた場所を広く使う工夫をいたしました。それは壁に頑丈な帽子掛に使う釘をつけました。そして、子供たちが広い場所を使って、何かの活動をする時には、手伝いの人がみな一斉に協力して、椅子を全部その壁の釘にかけるのです。そして床の上にあるものを全部きれいに片付けてしまいます。こうして椅子は、ほんの数秒間の間にきれいにかたづけられて、ほとんど、どのような活動もできる十分な場所ができてしまいます。

四、窓はできる限り、十分な日光が入るようにします。また子供たちが容易に外を見ることができると



幼稚園の設計図

うに低くします。

五、よく計画された幼稚科の部屋には、入口が後方に一つあるだけです。それは遅れてきた子供が、他の子供の邪魔にならないためです。また教師や、書記たちが、何回も用事で出入りしても、部屋の後ならば、子供たちの邪魔になることはありません。

しかし、注意することが一つあります。それは入口が一つしかない場合、日曜学校が終った時に大変混雑することです。子供たちが一度に、そこに殺到することが考えられるからです。それを避けるためには、少し注意して、子供たちを順に帰らせたり、迎えが来た子供から帰すようにして、それ以外の子供は部屋の中に待たせておくようにすればよいでしょう。

六、日曜学校には、部屋の片隅、しかも入口の近くに、大きな教材を入れるキャビネットが必要です。このキャビネットまたは棚は、少し高い所につけて、その下には、子供たちの洋服や雨具を掛けるようにしたら便利です。そうすれば、子供たちは部屋に入ってきて、すぐに自分たちのオーバーをぬぎ、帽子や、その他のものを、そこにかけてあげることができます。ある子供は家庭で、このようなしつけが全然できていませんが、注意して指導してあげるなら、まもなく自分たちでそれができるようになるでしょう。

このキャビネット兼洋服掛は、だれか教会の器用な人に頼んでも、簡単に造って貰えるでしょう。

七、壁はペンキを塗ってきれいにしておきます。ペンキの色は非常に子供たちに心理的な影響を与えるので、注意して選ばねばなりません。

それは、部屋のある場所によっても大分違ってきます。もし暗い部屋ならば、壁が青みがかった黒色で塗り、家具を明るい空色などに塗ってみると、かなり明るくなってきます。窓には、両側の枠だけを隠すようなカーテンを、小さな玩具の人形が並んでいるような、かわいい布地を用いて作って、つければよいでしょう。

もし部屋が明る過ぎれば、種々の色を工夫してみることが出来ます。緑色はいつも大変気分の安まる色ですから、緑系統の色を種々考えて使ったらよいでしょう。

八、次に床ですが、もし洋式の部屋ならば、じゅうたんがほしいところです。それは、第一に、うるさくないからです。ある子供は自分の椅子を前に出したり、後に出したりして、キイキイと床をこすって楽しんでしまいます。その子供は、自分では楽しんでいますが、他の人々にとっては、とても耐えられない音をたてるわけです。しかし、じゅうたんを敷いてあれば、そのようなことは無くなります。

第二に、じゅうたんは暖かいからです。けれども、じゅうたんは大変高価なものです。古物でも相当な値段がします。畳の部屋なら、音もたたないし、暖かくて良いのですが、損傷も激しいので、表換えを相当ひんぱんにする必要があります。新築をする場合なら、じゅうたんを敷いた方が、結局、得だということになります。

九、できるならば、幼稚科の教室にひき続いて便所を設けるようにするべきです。たとえそのようなことが不可能な場合でも、他のクラスが授業を行っている場所を通りぬけ、邪魔をしなければ便所へ急がないようなことがないように工夫したいものです。

## 設 備

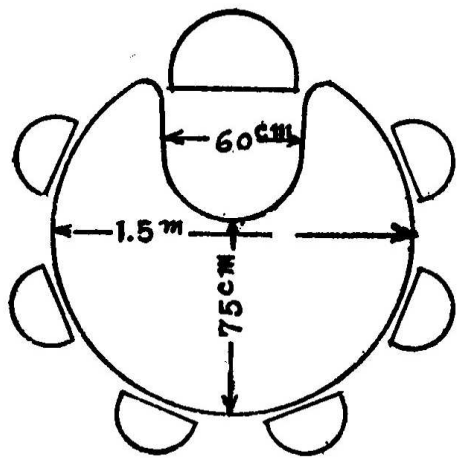
今まで、わたくしたちは幼稚科の部屋を魅力的にすることに話してまいりましたが、それよりさらに大切なことは、その部屋の居心地がよいかどうかということだ。

わたくしたちは坐り心地の悪い状態では、何かに打ちこもうとしてもできません。ところが、わたくしたちは、幼稚科の子供たちを高い椅子に坐らせておいて、なお、種々の物事に熱中するように要求するのです。小さな彼らの足は、床から十センチも二十センチも高い所でぶらぶらしているのです。両足を床にしっかりとつけないことほど、不安定で疲労を強めるものではありません。

一、まず、わたくしたちが考えるべき設備器具は、幼稚科の生徒に合った高さの椅子です。四才児には大体二十五センチ位の高さのものが適当です。もしできれば、五才児にはそれより少し高い、約三十七センチの高さの椅子を揃えたいと思います。そして、椅子は壁の色と対照的な色に塗ったほうがよいでしょう。

二、学課の話をする時、または工作をするのに使う机が必要です。ここに幼稚科のクラスに適当な机の見本図があります。これには丸くて深いU字型の切り込みがあります。教師の椅子がこの切り込みのところに入るわけで、そうすると、教師はどの子供からも大体同じ距離をもって坐ることになります。そして子供たちのだれにも背中を向けたり、立ち上がったたりしないで、全員を助けてあげることができます。この机の色は、もちろん椅子と同じにしたらよいでしょう。このような机が六人につき一つずつ作られたら、なんと幸いなことでしょう。

三、大きな日曜学校で、幼稚科だけで独立した活動ができるような所には、幼稚科専用のピアノかオルガンがほしいと思います。よく調律されてさえいれば、あまり高価なものでなくてもよいでしょう。

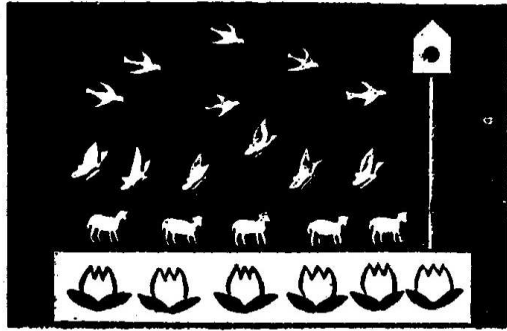


四、前述した、大きな教材入れの棚が無い場合、少くとも、その目的を果す、適当な大きさの棚か、戸棚を求めて下さい。毎週使うものは、細かいものまで入れると、クレヨン、のり、はさみ、鉛筆など、かなりたくさんあるものです。これらのものを全部入れて、鍵をかけることができる戸棚があれば、いつでもそれらの物を教会に置いておくことができるわけです。

また、幼稚科に所属する物を置く場所と、各教師が自分の物を保存しておく場所とを区別したらよいでしょう。その場合、他の教師の棚を無断で使用することは避けなければなりません。ある人は許可を得ずに、他人の物を使ってしまいう悪い癖をもっていて、無意識のうちに使ってしまうです。ですから、教師用の戸棚の使用については、規則を作って、守るようにした方がよいと思います。

五、幼稚科の子供は、耳で聞くより、目で見ることによって、より多くのものを覚えるということ为前提として、壁によい絵を貼ってみましょう。その際に、幼稚科の生徒の目の高さの所に貼らなければ、絵の意味がありません。貼る絵は、ただ生徒が興味をもつだけでなく、深い霊的教え、特に天の父なる神の愛を教えるような、よい絵にするべきです。

六、幼稚科の部屋には、必ず掲示板を備え付けるべきです。掲示板は自分たちでも、簡単にできます。麻布かブックのような布地を二メートルほど、子供たちの目の高さに貼るだけでよいのです。もし色物を



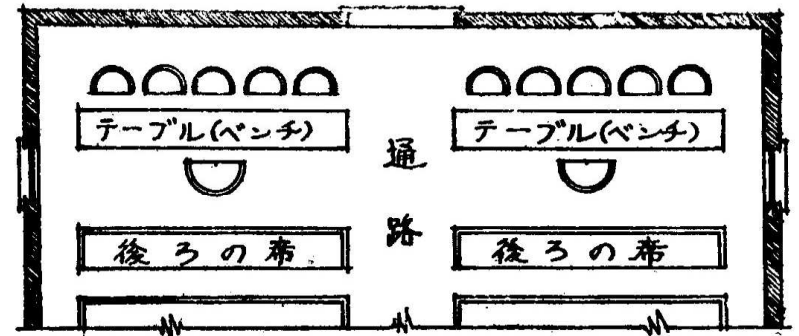
使う場合には、空の色を示し、また種々の背景に利用できる青色が最もよいでしょう。

もし、長期間使える掲示板がほしいなら、ベニヤ板や、最近出回っている新しい壁材などを利用して作れます。

掲示板には、ポスターや絵などを貼り、数週間そのまま掲示するようにします。学課に関係のあるものを貼ったり、時には、子供たちが作った工作も画鋏で止めて、家にもって帰る前に数週間展示しておくこともできます。掲示板の内容は時々変えて、子供たちの興味を絶えず引き付けるようにして下さい。

#### 一 部屋しかない日曜学校の対策

部屋が会堂一つしか無い日曜学校でも、幼稚科のために工夫することができます。そのうち一番大切



なことは、他のクラスを見えないようにすることです。それには衝立や幕を使えばよいのです。もちろん、他のクラスの音まで全部遮断するのは不可能でしょう。しかし、物珍らしげな子供たちの目から、他のクラスを隠すだけでも、ずいぶん違うはずです。

一、もし教会に器用な人がいたら、衝立か、それに類したものを作って貰ったらいでしょう。そして、子供たちの興味を引くような絵や、模様を書いたり、貼ったりしたらよいと思います。ある日曜学校では、衝立を作ったノアの箱舟の話を示す、数多くの絵を貼って、とても楽しいものになりました。

二、もし子供たちに適当な高さの椅子が、作れない場合、背付きの長椅子でもよいのです。それもやはり、できるだけ子供の高さに合うように、床から二十五センチから三十センチくらいの高さにするべきです。

三、もし工作用の机が無いなら、普通の長椅子でも十分に間に合います。この図に示したようにすれば、会堂の一部に二つのクラスがすぐにつきあがります。この二つのクラスの間衝立を置けば、隣のクラスとはか

なり遮断されて、独立した教室となります。

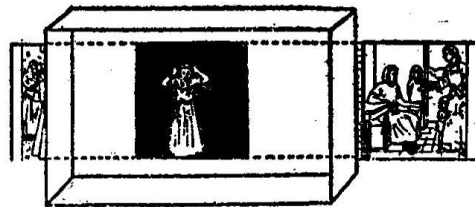
### 補助教材

子供たちは聴覚だけでなく、五感全部を通して学びます。ですから、教えるわたしたちが、五感全部を用いて教えていくならば、いっそう正しく、明瞭に、しかも深く印象を与えることができるでしょう。

五感のうちでも最も用いられるのは、視覚、すなわち目です。わたくしたちが受ける印象の、やく八パーセントは、目を通してくるものだと言われています。ですからわたくしたちは、視覚教材を特に重要視しなければなりません。

#### 一、フランネルボード

今日では、フランネルボードはこの幼稚科でも多く用いられているようです。それは縦七十センチ、横一メートルか、縦一メートル、横一メートル三十センチほどの平らな板に、ネルなどをはり合わせたものです。さらに、ネルの布地に山や空、その他の景色を色とりどりに描いて、背景としてその上に掛けます。物語の登場人物などは、紙を切り抜いて作り、紙の裏に小さなネルか木綿の布を貼りつけると、背景のネルにつくようになります。そこで、人物や背景を適当に変えながら、物語の情景を示していけばよいのです。このフランネルボードは、少しうしろに傾けて立てた方が使いやすいようです。



## 二、のぞき箱

のぞき箱は、靴のボール箱を利用して作れます。中に紙で作った人形や背景を立てた後、上にふたの代りに光りを通す薄い紙をはるのも一方法です。背景や人形を立てた反対側に小さなのぞき穴をあけて、中をのぞけるようにします。上部の薄紙を通して光がさし込んでくるので、中の状況はよく見えます。子供たちは順にのぞいてみて、きつと喜ぶでしょう。そしてその状況から、学課をはっきり学びとっていくに違いありません。

## 三、紙芝居

これには二つの方法があります。一つは箱を用いる方法で、もう一つは用いない方法です。

箱を用いる場合、ワイシャツやブラウスのボール箱が利用できます。箱の底に縦に溝を切って、学課と関係のある絵を横に繋ぎ合わせて、その溝を通して見せるのです。そして、次から次へと一連の絵を動かして、変えながら話をいたします。

箱を使わない方法は、ラシヤ紙など厚手の紙にフランネル・ボードに使う紙の人形や、学課に關係のある絵などを切り抜いて貼るのです。

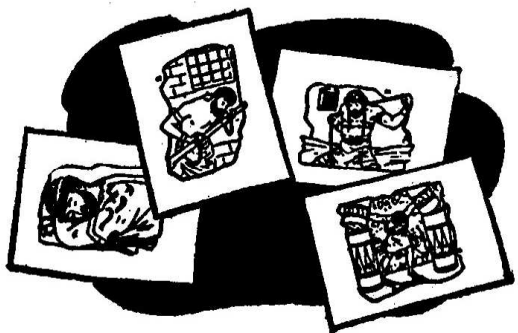
そして、その絵を順を追って示しながら話をするのです。

前者は横に続いていっているのに対し、後者は一枚ずつ別に見せるようになっていきます。さらに手がかかるかもしれませんが、両方を合わせて、普通の紙芝居のようにしてもよいと思います。

## 四、黒板

黒板は決して新しいものではありませんが、その利用価値は今日まで十分に証明されています。幼稚科の教室には、ぜひ黒板が一つあるのですが、できるなら携帯用ではなく、備付けのものがほしいと思います。もし備付けのものが無いなら、三脚の上に立たせてもよいでしょう。もし黒板が買えない場合には、壁材か、ベニヤ板に枠をつけて、黒く塗ればかなり使用することができます。

時には黒い黒板に白い白墨で書くだけでなく、色のついた白墨を使ってみてもよいでしょう。たとえ、絵が上手でなくても、教師は黒板書きをおぼえ、一筆画などで面白い形を書いて、子供たちの興味引き付けることができます。





どうしても黒板が手に入らない時、あるいは、あっても何か変化をつけたい時には、白い模造紙などにクレヨンなどで書くことも考えられます。

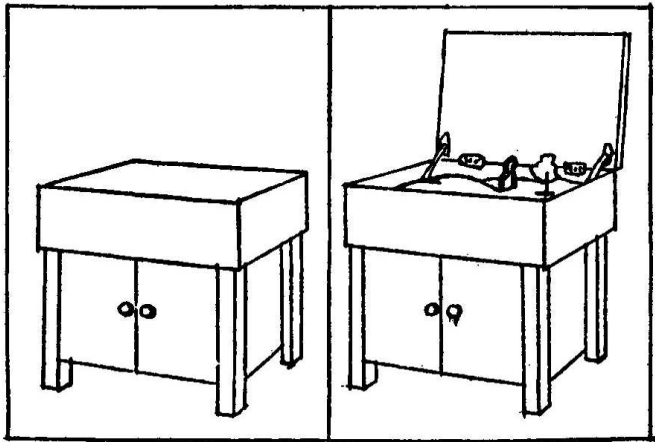
### 五、他の実物教材

今までに挙げたもの以外にも、教材は非常にたくさんあるものです。一塊の石炭、花、野菜、果物など、見たり聞いたり、さわったり、かいだり、味わったりする様々なものが利用できます。子供たちの五感を惜しむことなく全部利用して教えるべきです。子供たちを、あらゆる方法で学ぶように仕向けるなら、彼らは興味をもち、喜んで学ぶようになります。そのようにして学んだ真理は、彼らの頭と心の中にしっかりと焼き付けられるていくでしょう。

### 六、工作用具

幼稚科でできる工作は数多くあるので、自然、それに使う教材も種々あります。教案には、ぬり絵や、はさみで切ったり、のりで貼ったりする工作が付いていることがあります。しかし、それ以外に、各教師は自分たちで集めた種々のものを用いて工作をさせ、学課を子供たちに植えつけることができるのです。

たとえば、簡単な木の切れ端を様々なもの利用できます。積木として揃って売っているものを、高い金を出して買う必要はありません。大工さんの仕事のあとや、家具屋の仕事場などには、いろいろな形や大きさの木屑があるはずです。それらを集めてきて、きれいに切り、かんなをかけ、紙やすりで滑らかに



して、明るい色を塗れば、何年も使える立派な積木ができます。幼稚科の部屋には、このような積木を入れた箱を是非備えておきたいものです。これは貴重な教材の一つです。

### 七、砂箱

面白い教材として砂箱が考えられます。これは聖書の話を示すのに大変便利なものですので、できたら各クラスに備え付けたいものです。ここに示したような砂箱を作るには、二枚の板がいります。縦横七十五センチずつの大きさの板をふたと底に使います。底の板の周囲には十五センチ幅の板を釘づけにして、箱の形にします。さらに四十五センチの長さの脚を釘づけにします。その際、脚だけでもよいのですが、図のように棚を作れば、工作用具や、砂箱の道具などをしまっておくのに便利です。ふたは蝶番で止めます。そして中に砂を入れて、箱庭のよう

に物語の状景を作って見せるのです。

この箱は正方形でなく矩形にしてもよいでしょう。ふたをなぜ付けるかという点、まず砂箱の中に作り出される状景の背景の空などを、そこに付けることができるようにするためです。第二は砂箱を覆うためです。ふたをしても、まだ子供たちがいたずらをする心配があるなら、錠をつけたらよいでしょう。

これは、子供たちの遊び道具にしないほうがよいと思います。もし子供たちに使わせるなら、教材用の砂箱は別に用意して、物語を示すようにすべきです。子供たちは、いつも自分たちが使い慣れている遊び道具を使って、物語の状景を示して貰った場合、興味も尊敬の念ももたないのです。これでは、せっかくの砂箱も無意味になってしまいます。

## 第四章 生きた器具—職員

職員数は、ある程度、生徒数によってきまります。しかし、幼稚科が一つの独立した科になっている場合には、普通、幼稚科主任、オルガニスト、書記、それに生徒六人に一人の割で教師が必要です。オルガニストがいるのは、幼稚科が独自で開校礼拝をする場合で、大きな日曜学校でなければできないことです。

### 最も重要な人物

幼稚科の主任は主として、科の組織と職員の問題について、最後の決定をする責任をもっています。しかし、賢い主任は自己過信に陥ることなく、その科で働く職員全部が、みな同様に無くてはならない重要な存在であることを認めます。ある人々は、一見、大して重要な働きをしていないように思えます。しかし、だれが、この人があの人よりさらに重要であるなどと、きめることができるでしょうか。

科の主任の重要性をわたくしたちは過小評価することはできません。なぜなら、主任があまり優秀でない場合、その科全体があまりよい成績をあげることができないからです。しかし、わたくしたちは、その科に所属するすべての人が、働きを進めていくのに無くてはならない人々であるという事実をさらに強調

したいのです。それは、わたくしたちは、みな、神と共に働く者だからです。

### 最も重要なこと

幼稚科の働きをするに当って、大切なことは数多くありますが、その中で最も大切だと思われるのは、教師や他の職員たち相互間のお互を尊敬する愛の心です。これは、互に忍耐をもって忍ぶだけではなく、本当のクリスチャン愛をもつことです。

第二章において、わたくしたちは、生徒は、教師の態度や心の中の気持に敏感であると語りました。彼らは幼稚科の職員たちの間に、何かが存在するならば、学課を理解するより早く、ただちにそれを感じしてしまいます。もちろん、かれらは、その問題について、自分で種々考えてみるようなことはしないでしよう。しかし、この空気は、かれらの中に刻み付けられてしまいます。やがて大きくなった時に、かれらは、あなたから得たこの悪い印象をもって、日曜学校のすべての教師を見下げるような態度にでるかも知れません。

幼稚科の職員たちは計画や方法についてたがいに違った考えをもっているでしょう。しかし、わたくしたちは愛をもって、たがいに意見を尊重しながら、語り合い、論じ合って、はげんでいきたいものです。こうして、たがいに厳しい批判的な態度を避けることができるのです。わたくしたちは生徒に愛を語るだけでなく、自分自身で生活しなければなりません。コリント人への第一の手紙 第十三章。

## 主 任

幼稚科には主任が必要です。主任となる資格は、第一章に示した教師としての資格に加えて、校長と同じ資格が必要です。

## 教 師

教師の資格については、第一章に記しましたので、ここには教師の義務について記します。

一、幼稚科の教師は、教える学課の準備を十分にしなければなりません。これは聖書から物語をよく調べ、教案をよく研究することです。

二、日曜日に自分のクラスに来る前に、教師は学課はもちろんのこと、開校礼拝、工作、視覚教材、後の締めくくりの時間など、全部に対して、十分の準備をあらかじめしなければなりません。幼稚科の子供たちのできない仕事を教師は日曜学校の時間前に全部完成してくるのです。クラスに来てから、あわててそれをしたことは避けなければなりません。教室では、あなたの全神経が子供たちに向けられ

ていなければならぬからです。

三、教師は自分の科や、日曜学校全体で歌われる歌は全部知らなければなりません。新しい歌が教えられる場合にも、指導する校長と同じように、各教師もその歌をよく知って、協力する必要があります。

四、教師はいつも、できる限り自分のクラスの欠席者を訪問しなければなりません。もし自分で訪問できない場合は、そのことを主任、または校長に知らせなければなりません。そして、他の人に訪問して貰う時には、その子供に、出席できずに残念だった、寂しかったというようなことを書いた手紙をあげるべきだと思います。

五、教師は自分のクラスの子供たちを知り、また理解するように努力しなければなりません。かれらを理解する最もよい手段は、彼らの背景を知ることです。そのためのよい方法は家庭訪問です。大抵の親たちは、自分の子供を、本当に関心をもって指導してくれる人がいれば喜ぶものです。家庭訪問をして、しばらくの時をもつということは、むしろいい子供を理解し、指導するのに大変役立ちます。さらに、それは、家庭と日曜学校との間に、よい相互理解を生みだすことができます。

六、よい教師は協力的です。そして、その科の会合や日曜学校全体の教師会などに忠実に出席いたします。

す。

七、幼稚科の教師にとって、最も大切な義務は、常に自分自身を靈的に備えることです。これは非常に重要なことです。子供たちを教えるにあたって、あなたの生活を通して、また、あなた自身を通して、イエス・キリストが見られ、また感じられるように祈らなければなりません。教えることを実際にあなたも行うことが必要です。前述したように、愛について教えながら、あなた自身の中に愛がないならば、愛の源に行つて助けを求めなければなりません。本当の愛を与えてください、と天の父に祈る時に、はじめあなたは、子供たちに正しく愛を教えることができるようになるのです。

#### ピアノistまたはオルガニスト

幼稚科だけでオルガンやピアノをもち、オルガニストやピアノistをもつことは、大きな教会でなければできないことです。日曜学校が祝され、栄えて、各科にオルガンを備え、オルガニストをもち、科毎に開校礼拝をするようになるなら、すばらしいことだと思います。幼稚科のオルガニストの資格は、全校のオルガニストの場合と全く同じです。

幼稚科の書記の働きは、日曜学校全体の書記と同じようなもので、その範囲が幼稚科に限られるだけです。書記は記録、通信など、一切の事務系統の責任をもたなければなりません。

## 第五章 日曜学校の時間

### 始業前の時間

あなたが、もし、日曜学校が始まるのは八時半、または九時、というようにきめられた時間だと思っているなら、それは間違いです。特に幼稚科の場合、最初の子供が日曜学校に到着した時から、一同を敬虔な礼拝の空気の中に置いておくことが大切です。子供たちとわたくしたちが共に過ごすために与えられた短い時間は、少しもむだに出来ません。最初の子供が日曜学校に着いた時から、職員のだれかが玄関で生徒を迎え入れるようにします。その際、職員全部が出迎える必要はないでしょう。一ヶ月交替などで番をきめて、いつもだれかが迎えるようにすべきです。

これには二つの目的があります。その一つは、子供たちに神とその愛について、さらに教え、成長させるために、貴重な開校前の時間をも利用するためです。その二は、子供たちが教会に着いて、すぐに教師に迎えられるなら、教師の手から離れて、しつけ上の問題を引き起こす心配がなくなるからです。

子供たちが教会に着いた時から、日曜学校が始まるまでは、何でも自分の好きなことをしてもよいとして、そこには修羅場が展開することになります。もし一度そうなったら、騒いだ子供を静かにさせて、

ゆったりとした、平安な、そして学びやすい態度をもつように導いて行くのは、むずかしくなります。子供たちが、自分勝手におもちゃなどを出してきて、遊んで、時間を待っているような日曜学校では、それだけでなくも短かいと思われている日曜学校の貴重な時間を、みな、失ってしまう恐れがあります。幼稚園の子供たちは、もちろん遊ばなければなりません。かれらはそのように造られているのです。しかし、かれらが遊ぶ場合、指導者によって導かれ、監督される必要があるのです。そうすれば、その遊び時間が、さらに神を知るために利用できる時となるのです。日曜学校は、最初の生徒が来た時から始めるようにしてください。

## 開校礼拝

開校礼拝の時間は、ただ単に建設的な空気の中で行われるように計画するだけでなく、その日の学課と関連性をもたせて計画すべきです。幼稚園の子供は、一時に一つのことしか学ぶことができないのです。しかし、わたくしたちはその一つのことをはっきりと覚えるようにさせたいのです。そのためには、日曜学校で行われるいっさいの行事を、その日の主題のもとに準備すればよいのです。

開校礼拝の時に教師が、その日の学課に合った教材を展示するのも一つの方法です。たとえば、その日の学課が、ハンナがサムエルのために洋服を作った話だとすると、雑誌などから洋服の絵を切り抜いてきて、ラシヤ紙などに貼りつけます。そして、それを展示場として部屋の真中に置いたテーブルの上

に飾るのです。さらに羊の写真を準備してもよいでしょう。そして、子供たちが日曜学校に来たら、すぐにこういう絵や写真の所につれて行って、見せてあげるようにします。そして、神様は、わたくしたちの暖い毛の洋服を作るために、羊にあの柔かい毛を与えて下さったことを説明してあげます。それから、羊毛から洋服が作られる過程を示す教材も準備したらよいと思います。

他の教師は、もう一つの、積木をたくさん積んであるテーブルに子供をつれて行き、積木で教会を作るようにさせるのです。そこで、教会について種々話し会うことによって子供たちの中にサムエルが住んでいた教会についての予備知識が与えられ、学課に対する準備ができるのです。

## 聖書の立場

教師は、聖書が神のことばであることを、言葉と行為によって示さなければなりません。なぜならば、幼稚園の教科書は聖書だからです。もちろん、聖書は小さな子供たちに直接あてて記されたものではありませんが、おとなと同様、子供たちの必要に応じるためにも記されているのです。ですから聖書は常に学課と関連をもって示されなければなりません。子供たちの聞く話は教案に書いてある物語ではなく、聖書に書いてある話だ、と思うように指導する必要があります。ですから、教師は教案を手にして、聖書をどこかに置いて話をせずに、聖書を手にして、話をするようにしなければなりません。

幼稚園のクラスでは、きれいな聖書を使うようにして下さい。そして子供たちが、その聖書の中をのぞ

いたりして、聖書になじむ機会を与えてあげるのです。その際、手のきれいな子供だけがさわられるようにして、聖書は、いつも、ていねいに注意深く取り扱うべきものだ、と教えるべきでしょう。教師自身も聖書を不注意に投げ出したり、叩いたり、荒々しく取り扱ってはいけません。

常に学課を聖書と結びつけて、物語は聖書の中に書いてあるのだ、とはっきりと言うべきです。たとえば、「神様の御本の中には、こんなすばらしいお話が書いてありますよ、きょうはそのお話をいたしましょう」と、いうように話を始めたり、あるいは話が終ったあとで、「このお話はイエス様がしてくださったお話です。それは、このすばらしい聖書の中に書いてあるのですよ」と言えばよいのです。時には聖書について話をし、聖書に関する歌を歌って、わたくしたちに聖書をくださった神が、いかによいかたであるかを教えてあげたらよいでしょう。聖句も子供たちに教えてあげましょう。ただし、その時、何回もただ繰り返して暗記させようとしなくてください。子供たちはそういう方法では、あまりよく覚えられないのです。物語の中で、その聖句を何回も言うようにしたほうが、かえって効果的です。子供たちは、自然に繰り返すことによって、覚えていくのです。このようなことを通して、子供たちの中に、自然に聖書は神の本であり、わたくしたちの生活の指導書であり、教科書であるという考えがつけられていくのです。幼稚科の時代に学んだこの態度は、たぶん、一生涯かれらの中に残っていくようになるでしょう。

#### 日曜学校の時間の变化

わたくしたちは、幼稚科の子供は何に対しても、非常に短い時間しか興味をもたないということを覚えていなければなりません。ある子供は、四分か五分であきてしまいます。幼稚科の子供が十分以上興味をもち続けることは、殆んどありません。かれらはすぐにあきて、次のことをしてみたくないので。次にすることが無ければ、いたずらを始め、他の人を困らせるのです。ですから、常に子供たちの興味をひき、協力をさせるためには、教師は常にクラスの子供たちの一歩先に進んでいなければなりません。子供たちが騒がしくなってきたら、すぐに新しい行動を始めるべきです。たとえば、今していることが、まだ完成されていなくても、次の活動に移ったほうがよいのです。そして、またあとで戻ってきて、やりかけのところを完成するようにするのです。

このように日曜学校の時間には、様々な活動が行われるのですが、それらのものを通して一つの思想、主題をもち、その日の学課を子供達の心の中にはっきりと打ち込むようにしなければなりません。そのためには種々考え、全活動が相互に関連をもつように計画をたて、準備をします。これは大変やりがいのあることです。一つの方法で願ったような印象を与えることができなくても、他の方法でそれは成功するかも知れません。ですから、あなたのきめた一つの目標に向かって、すべてのものが互に相働くようにもっていくのです。しかし、その際にも、順序をきっちり守らなくてはならないと考えたり、子供たちを楽しませるだけで満足してはなりません。

変化に富んだ日曜学校をするためには、耳、目、指、足、嗅覚、味覚など、五感全部の機能を利用すべきです。そのためには、視覚教材、または実物教材を教室の中の展示机の上に置いて、子供たちを集め、説明

する方法もあります。このテーブルは日曜学校の時間中ずっと置いておき、話の中でも時々それを指してあげたらよいと思います。時には、手にとって見せて、細かく観察させることも必要でしょう。そこに展示するものは、花、常緑樹、落葉、種、松ぼっくり、滑らかな小石、古い小鳥の巢、果物、野菜、魚、小犬、カナリヤ、金魚などの小動物など、いくらでもあります。よい結果をもたらすためには、取り扱い方も正しくする必要があります。わたくしたちは、あらゆる面から、神の愛とわたくしたちに対する配慮の御手というものを知り、感謝できるように子供たちの霊的成長を促進するように計画する必要があります。

## 五感の利用

わたくしたちは視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚など、体の五感全部を通して学びます。五感の中でも視覚が物事を学ぶのに一番効果的なことは明らかですが、他の感覚も大いに用いることができます。特に幼児の場合はそうです。霊的な真理を強く印象づけるために、わたくしたちは、それらを全部利用すべきです。

神は、わたくしたちに食物を与えてくださるよいかたであることを示すために、教室の中に、何か食物をもつてくることも考えられます。まず、子供たちに、それを見させ、さわらせ、においがかがせ、味わせ、これらの食物を与えて下さったのは神様だ、という話をしてあげます。そうすると、今度この食物をたべた時に、子供たちはきっとその話を思い出して神に感謝を捧げるでしょう。

主イエスは常に天国のことや霊的真理を話す時に、おとなに対しても地上の様々な例を用いられました。主は、偉大な霊的真理が、地上の様々な体験の中に写し出されているのを指摘されたのです。わたくしたちも、子供たちに霊的な思想を示し、感謝する心を育てるために、どこにでも見出し出せる花や木、小鳥や動物など、自然界の実物を大いに利用すべきです。

## 行う学課

人間が最もよく物事を覚えるのは、自分でそれを行ってみる時です。聞いたり、かいたり、味わったり、さわったりしたもののうち記憶に残っているものは、ごく僅かです。しかし、たいてい、自分で行ったことはよく覚えていきます。

ここにわたくしたちは行う学課、工作の重要性をみるのです。もちろん、ただ子供たちに何かさせておけばよい、というのではありません。わたくしたちの目的は、子供たちを静かにさせて、何かを一生懸命するようにならせることではありません。わたくしたちは、学課と関係をもった、目的のある工作を計画しなければなりません。教案に工作が示されている場合もありますが、熱心な教師は、自分で注意深く工作の計画をたてます。型を書いておいたり、絵を切り抜いておいたり、実物教材を集めたりというような準備は、もちろん全部しなければなりません。学課が終わった後、工作をすることにより、また教師が注意深く、学課とその工作とを関係づけて説明することによって、その日の学課は十分に復習したことに



なります。ですから教師は、子供たちがはさみを使ったり、クレヨンを使っている間に、その日の学課について尋ね、かれらの反応を探るべきです。そして最後に、学課の示す霊的な教をもう一度はつきりと強調して、かれらの中に植え付けるようにしたらよいと思います。

行う学課は、工作にだけ限定される必要はありません。時には、教師が話したその日の物語を子供たち自身の言葉で言わせてみることもよいでしょう。一人の子供を指して言わせると、他の子供たちは足りないところを順につけ加えて、物語をまとめあげるでしょう。これはその日の学課に限らず、前の週の学課の復習に利用してもよいし、何回かのシリーズになっている学課を簡単に続けて思い出すために用いてもよいでしょう。そのためには教材の絵を見せて、話のきっかけを作ってもあげられることも考えられます。子供たちは絵を見ることによって、前の物語を思い出すからです。

よく子供たちは、聖書の物語を劇にして発表することができます。たとえば一人の子供が眠っているサムエルになります。もう一人の子供は、エリになります。そして、教師がサムエルの名前を夜中に呼びます。サムエルはそこで起き上がって、エリのところに行ってみるといふ具合です。このようにして、物語を一つ一つ、実際に自分たちの手でおこなってみることによって、かれらははつきりと、その物語を頭や心の中に刻み付けることができます。教師はその場の背景や状態を言葉で少し説明するだけで作りあげることができず、幼稚科の子供には舞台や大道具、小道具などは全然ありません。ただ言葉と想像だけで十分に行うことができます。

### 簡単な計画の実行

霊的な真理を行動によって、子供の中に植え付ける一方法として、簡単な計画をたてて、子供と一緒に実行してみてもよいでしょうか。たとえば、仲よく分け合うことについて学ぶにあたって、貧困家庭のために食料品を皆で捧げて、かごに入れて持って行くようにするのは、また、子供たちは病院や養老院などに閉じ籠っている人たちを訪問して、歌を歌い、励ましてあげられることもできますし、外国の孤児たちを助けるための特別献金をすることも考えられるでしょう。

教師は注意深く計画をたてる必要がありますが、それはまた、子供たちによって説明され、家庭の十分な協力がなければ実行できません。

よい天気の日には、日曜学校の時間中にも、単に休み時間としてではなく、しばらく野外に出て、散歩をさせてみることもよいでしょう。鳥や木を見、そよ風に吹かれ、暖かい太陽の光を浴びながら、それらの一つ一つ指摘して、神がいかによいかたであり、愛して下さっているかということと話して下さい。もちろん、余った時間をうめるためにはいけません。その日の学課に結びつけられている時のみ、このような活動は大きな価値をもつようになり、また子供たちの興味をひくようになるのです。

## 休息の時間

日曜学校の時間の中には、子供たちをしばらく肉体的、精神的緊張から解放してあげる休息の時をもつべきです。これは全く休んでしまう時間ではなく、簡単なゲームをしたり、指先を人形にして話をしたり、あるいは静かな音楽を聞いたりするのです。また「夜ごっこ」と称して、腕枕をして、しばらく寝ているまねをさせるのも、かれらを休ませるのには大変効果的です。

子供たちが疲れてきた時、あるいは、はげしい活動をさせた時などは、子供たちの感情や態度に応じて他の活動、たとえば歌やゲームなどをさせたり、立たせたり、行進させたりして、元気に満ちているかれらの手足を十分に動かす機会を与えてあげるようなものに、早く移っていくべきです。

日曜学校の時間を十分に利用するように、様々の計画を注意深くたてて、じょうずに調節しながら実行していく時に、わたくしたちは子供たちにその日の学課を正しく、はっきりと植え付けていくことができます。全活動が一主題に統一され、互に補い合っているなら、子供たちは日曜学校の全時間を通じて、種々の角度から真理を繰り返し強調されて、家に帰っても絶対に忘れないほど、はっきりと学んでいくことができます。その刻み付けられた真理は、かれらの人格と人生を永遠に形成するのに、大きな役割を果すものとなるでしょう。

## 第六章 学課の準備

教育の最大の、そして、最も重要な部分は、実際に教える以前にあります。それは教師側の学課の準備であり、また、子供たちを学課のために準備させることです。ですから教えることには三つの段階があるわけです。それは、第一に、教師の準備、第二に生徒の学習態度の調整、第三に実際の授業、という順序です。

### 開始の時期

教師の学課の準備は、日曜学校が終った時にすぐに始めるものです。ですから、日曜日の午後が、最も理想的な準備の時です。なぜなら、教師は、その日の学課と授業についてまだ記憶が新しく、それと、次の学課とを関連させることができるからです。大抵の教案はいくつかの学課を一つのシリーズにして作られています、ですから、絶えず前後関係を頭に入れて教える必要があることです。そして、シリーズの目標としている一つの目的を達成するようにしなければなりません。

準備をしてこなかったとか、準備の量が少なかったとかいうような言訳を子供の前ではいけません

ん。もし、そのようなことを言うと、子供たちはすぐに不安を感じるようになってしまいます。たとえ、そのようなことを言わなくても、幼稚科の生徒は、あなたの準備が足りない時には、すぐにそれを感じとってしまいます。ですから、子供たちをだまそうとしても無駄です。常に十分な準備を調べていけば、憂いはないわけです。それには早くから始めること、また、熱心に、忠実に準備をすることが必要なのです。

### 祈り深い準備

準備をするに当って、祈りほど大切なものはありません。たとえ教えることは、あまりじょうずでなくても、熱心に祈る教師は、霊的な準備をないがしろにする話の上手な教師よりもまさっているのです。学課の準備をするに当って、クラスの子供一人一人のために祈らなければなりません。また何か、困難を感じているなら、それに勝利するように祈らねばなりません。もし、乱暴な子供がいたり、言うことを聞かない子供がいるなら、その問題に勝利できるように主に祈り求めるべきです。わたくしたちの戦いは、霊的な戦いですから、霊的な武器が必要です。祈り、信仰、献身などが、わたくしたちの人間的才能よりも遙かに重要な働きをするのです。

準備をするに当って、教師は、準備する学課と自分自身の上に、聖霊の油注ぎが与えられるように祈らなければなりません。わたくしたちは、自身では何もすることができないからです。わたくしたちは、すべてのことをキリストによって、聖霊の油注ぎによって、することができなのです。才能も、思想もみな

キリストのところにもってきて、祝していただくことにより、神の御栄光のために用いられるようになるのです。あなたは、牧師が、教会で御奉仕をする前に、主の前にぬかずき、祈りの中に準備するように願うでしょう。それと同じように、あなた自身も教える前に主を求めなければなりません。

### 注意深い準備

教師は学課に出てくる聖書の物語を始めから終りまで知らなければなりません。それにはまず、聖書に書いてあるその物語を読むのです。そして、子供たちにその話がわかるようにさせるには、どのようにしたらよいか考え、計画をたてます。それから、自分一人でも、あるいは家族の人々が協力してくれるなら、かれらの前で練習をしてみます。練習は大変有益な準備の一方法です。

視覚教材や実物教材を用いるなら、その材料をよく知り、じょうずに使えなければなりません。ですから、本番の前に、鏡の前で練習をしてみるべきです。学課を熟知し、授業中にすることを順序正しく全部確実に覚えている教師は、落着いて定められた目標に向かって、あなたのクラスの時間に教えることができるのです。

### 邪魔ものの期待

あなたは幼稚科を教えているのです。ですから、どんなことでも起こる可能性があることを考えなければなりません。子供たちは今まで考えてもみなかったような、新しいものを持ちだしてくるかもしれせん。ですから、たとえあなたが自分の学課をよく知り、計画をきちんとたてても、邪魔が入った時には、それを利用して、話を続けていくことも考慮に入れる必要があります。邪魔が出た時に、それに対処する方法が二つ考えられます。第一は、その邪魔に応答して、すぐにまた、もとの学課に戻る方法です。第二の方法は、その邪魔ものを受け付け、それを取り扱いながら、それを通して学課に入っていく方法です。いずれにしても、邪魔を無視したり、一言のもとに拒否したりしてはいけません。また話の邪魔をする子供たちを叱ったりして、かれらの思想の芽を摘みとってしまっってはいけません。それは子供にとって、想像以上に大きな打撃を与えることとなります。このような細かい点にも、わたくしたちは注意深くなければなりません。子供たちは自分の考えや思いつきが非常に重要なものであると思ひこみ、もったいぶります。ですから、わたくしたちはそれをいねいに取り扱う必要があります。主イエスも、種々の邪魔に相違しましたが、それを決して無駄にはしませんでした。ヤイロの娘をいやしに行く途中で、かれは、衣の裾にさわった一人の婦人によって邪魔されました。しかし、かれはその邪魔を取り扱って、かえってこの魂のいやしと、祝福の源とされたのでした。またかれはスコ・フェニキヤ地方の女が、休息を邪魔しようとして来た時にも、それを許し、かえって彼女を祝福してあげました。

予期しない状態が起こった場合、それを益とするか、害とするかは、それに対処する教師の才能によります。

ある日曜の朝でした、幼稚科の子供たちが、いつものように楽しそうに歌を歌いながら、ステップをして部屋に入ってきました。ところがどうしたことか、一人の男の子がころんで、頭をピアノのかどにぶつけてしまいました。その子はもちろん、大きな声で泣き叫びました。幼稚科の主任は、その子供を抱き上げて、慰め、あやしてあげました。ほかの子供たちもみな集ってきました。そして一緒に何だかんだと言いはじめました。それは、もう収拾のつかない状態のように見えました。主任は小さな男の子を静かにさせました。そして、もう大丈夫だということをはっきりさせました。

それから、ほかの子供たちにどうしてころんだのか、どうしてけがをしたのか、というようなことを話させました。そうしている間に、この主任は一つの話をする機会をここに見出したのです。そして、一人の父親が子供の病気をなおしてもらうために、イエスのところへ行った話を始めました。この話はちょうど、その日の学課の話でした。子供たちは非常に興味をもってその話を聞き、またその学課の絵を熱心にみつめていました。それから、子供たちは円陣をつくって、あらかじめ計画されていたことを順序よくやっていくようになりました。

この主任は、困った状態を利用して、子供たちをその日の聖書の学課に興味をもつようにさせていったのです。ですからこの場合、思想の流れが中断することはありませんでした。何もかも始めから計画していたように順序よく行なえたのです。それはこの教師が自分の学課をよく知っており、また、才能の豊かな人だったからでした。

これと関連して考えられることは、子供たちが言い出したことは、つきつめ、まとめてあげることの必

要性です。子供たちは自分から進んで種々の思いつきや意見を言っていて、物語に対する応答を示します。しかし、時々子供たちは物語の主題と全然関係のないことを言いだすかもしれません。それはその日の学課に利用することができないかもしれませんが、やはり、ていねいに取り扱い、それはそれでほめてあげ、まとめあげて、学課の本筋に戻ってくるようにすべきです。

学課とは無関係のように思えるものも、時にはその学課に導入する緒言として利用することができるようです。少くとも、子供たちはそのように関連性をもって考えているのです。ですから、わたくしたち教師も、それを利用することができるはずです。

ある幼稚科の教師が創造の物語をしていました。ところが一人の男の子が立ち上がって、自分の家に新しい犬の子がいるということを非常な熱心さをもって、言い始めました。犬の子とこの学課とは関係の無いことでしたが、この子供はたぶん、教師が動物について言ったことから、自分の小犬を思い出したのでしよう。この教師はすぐにその発言を利用しました。そして、もっと、その小犬のことを話してくれるように頼みました。それから、神が実際に小犬も創造されたのだということを描いたのです。そして、この教師はもう一度創造の物語の本筋に戻り、その真理を示すことができたのでした。邪魔もかえって、学課の助けとなったのです。この学課の真理は小犬が出現したことによって、さらにはっきりと子供の頭の中に植えつけることができたのです。

### プログラムの計画

前述したような邪魔が突発することを、わたくしたちは予期して、臨機応変に処理をしなければなりません。それが、それだからと言って、日曜学校の時間のために、はっきりとした計画をたてなくてもよい、というわけではありません。わたくしたちは、自分で必要だと思うものを幾つかの方法で計画し、プログラムを作っておくべきです。聖書物語は時間の終りに話すように計画してもよいし、また、もし、適当と思われらるならば、早く話してしまって、残った時間を工作や、その他の方法で発表させるために使う方法を計画の中に入れてもよいのです。わたくしたちはその時の状態に応じて、自由自在に変えることができるような柔軟性をもった計画をたてなければなりません。しかし、なお、根本的なものが、その計画の一部分として、含まれていなければなりません。プログラムの中には、いつもきままって行い、無くてはならないものがあるのです。たとえば、子供たちの帽子やコートなどをぬいで、きちんと掛けるようにさせること、あるいは子供たちが持って来た献金を集めることなどです。そうして、何々先生がこの歌をオルガンでひき始めたら、おもちゃをしまおうというような簡単な規則が認められ、守られるようになるならばよいです。そうすることによって、子供たちは安心感を得、さらに親しくなることができるようになります。子供たちは、繰り返しすることを決まっています。かえって、そのほうが好きなのです。ですから、教師はこの方法で自分の目的を達成するように努力するべきです。

幼稚科の子供は形式主義というものはよくわかりません。ですから儀式には無関心です。そこで幼稚科には、自由な空気、自然に会話ができる空気が満ちていなければなりません。教師は「さあ、みんな円くなってお話をしましょう」と言ったり、「これからわたしたちは砂箱に行つて、砂で遊びます」と宣言する必要はないのです。話を聞く時に子供たちは必ず円く坐らなければならぬ、という規則はありません。どのような坐り方をしても、かれらは会話にはすでに応じてくるのです。ですから、何から何まで型にはめる必要はありません。積木は遊ぶためにあるもの、絵は見るためにあるもの、と子供たちが感じ、自由に使えるように教師は指導すべきです。もちろん、このインフォーマルな態度があまり極端に走つてもいけません。教師は、常にかれらを指導し秩序を保つていかなければなりません。しかし、インフォーマルな、自然な話し合いを通して、指導する方が、きちっとした、いかめしい順序立った方法よりも、さらに多くのことを成就できるのです。

### 学課の目標の選定

このことについては間接でありましたが前に述べました。しかし、教師が学課の準備をする際に、学課の目標を念頭において、準備をすることは非常に重要なことです。どの年令のクラスにおいても、十の真理を一度だけ教えるよりも、一つの真理を十回教えた方が遙かによいのです。これが上級のクラスにおいて真実であるならば、幼稚科のクラスにおいてはなおさらのことです。

学課の準備をするに当って、教師はまず、どのような結果をこの学課から期待するか、どのようなことをこの学課において強調するか、その目標となるべきものは何か、ということをきめなければなりません。もし教師が教案に示されていること以外の点を強調したり、目標としたいと願うなら、それは自由です。とにかく、一つ目標をたてて、日曜学校の時間のすべてをその目標に向かって計画するのです。時間が始まる前に、子供たちに見せる展示机も、歌も、遊戯も、工作も、視覚教材、実物教材など一切のものが、聖書の学課をさらに補い強め、あなたがしっかりと子供達の心の中に植え付けたいと願う真理を指摘するものとなるように計画してください。真理を示すのに聖書の物語を用いるのは当然ですが、聖書以外の物語を用いることもできます。教師が利用できる話は四種類あります。

#### 一、物語の繰り返し

これは前に話したことのある物語、すなわち子供たちがすでに知っている物語を、もう一度することです。これは前週の話の復習をして、新しい学課の背景を示すためにしばしば用いられます。

#### 二、聖書の物語

これは、その日の学課の中心になるものですから、最大の関心と努力が集中されるべきものです。なぜなら、それは神のことばを子供たちの心に語り、学課の真理を示す実際的方法だからです。

#### 三、日常生活の中の事件

これは聖書の物語の示す真理を強調し、また説明するために例話として用いるものです。聖書の物語を用いて、わたくしたちは、釘を打ち込み、日常生活の中の物語を用いて、さらに打ち込んだ釘の頭を、しっ

かりと中に打ち込むようなものです。この種の物語は、教師が自分で考えだしたものでよく、また、よそから借りてきたものでもよいのです。日日の生活からも、また、古典的児童文学、あるいは、昔ばなしなどの中にも、ごく自然な実際の道徳をとり扱った話が数多く見い出せます。

#### 四、絵 物 語

これは、復習に使ったり、学課の中で一番大切な聖書物語を話す時に使うのです。教師は、絵を手にもつてその絵の細かい点まで指摘しながら物語をすることが出来ます。

授業の計画をたてるに当って、教師はこのような四つの物語の型を念頭に入れておくべきです。そして授業に変化をもたすために、様々な型の話をその時に応じて、使うように計画したらよいでしょう。

#### 間違いによって学ぶこと

教師が授業を終えて静かに坐り、その日の日曜学校の時間中の出来事や結果を振り返ってみることによつて、その日の学課は、はじめて完結するのです。自分自身と、自分の働きを向上させたいと思う幼稚科の教師は、常に反省評価することを、習慣づけなければなりません。これは日曜学校が終わったばかりで、まだ、すべてのことが記憶に新しく残っている間にできるだけの方がよいのです。もし何人かの教師が、一つのクラスの奉仕をしているなら、互に卒直に、しかも、友好的に語り合うのもよいでしょう。次に反省すべきいくつかの項目をあげてみましょう。

一、計画はよかったか。上手にたてられていたか。どのような弱点が見出されたか。

二、時間を楽しい時間にするために、十分な変化をもたせることができたか。子供たちにその中で何かをやらせてみたか。子供たちの反応を得るのに、最も効果のあったものは何であったか。

三、聖書は正しく取り扱われたか。聖句を使い、また、その意味をはっきりとさせることができたか。

四、子供たちが一緒に働き、遊ぶことができるような空気がつくられたろうか。歌は、子供たちを正しい態度をもつように導くのに役立つものだったろうか。

五、予想しなかった状況が出現したか。もし出現した場合、それを利用して学課に結びつけることができたろうか。子供の質問に十分に、満足するように答えることができたか。それともそれを拒否してしまったか。

六、子供たちを礼拝するように導いただろうか。献金を捧げるに当って、正しく理解させ、はっきりとした動機をもって捧げるように導くことができたか。かれらは、きょうの学課から目的とした真理を学びとることができただろうか。

七、価値のある子供の応答を得ることができたかどうか。結果は満足すべきものだったか。もしそうでなかったら、それはなぜなのか。

八、将来子供たちの助けとなるようなものを彼らはこの学課から、学ぶことができたかどうか。

以上の反省をおして、教師は自分自身の失敗や弱点を、容易に見出すことができます。わたくしたちは自分自身のあやまちによって、学ぶことができるし、また、自分の才能や授業方法を向上、進歩させることができるのです。失敗はわたくしたちが次の時にはさらによりよく準備できるようにさせてくれます。

## 第七章 授 業

熱心に祈り、注意深く準備をし、計画をたてたなら、今度は実際にこれを実行することです。一つの学課の中で行われる活動は、全部その学課の主題のもとにまとまって、その日の真理を教えるのに貢献するということを前に述べました。さらにここで付け加えたいことは、学課には常に三つの根本的要素が含まれていなければならないということです。それは礼拝、学び、交りの三つです。この三つのものを別々に切り離すことは不可能であり、また、各クラスの時間の何分間をこれに、次の何分間をどれにというように配分することもできないのです。この三つのものは、常に同時に進行するもので、学課のどの活動計画の中にも織り込まれていなければなりません。

「交り」の中には、挨拶をすること、互に誕生日を祝うこと、新しい生徒を歓迎すること、仕事をする事、歌うこと、話を聞くこと、一緒に遊ぶことなどが含まれます。

「礼拝」は、もちろん、特別な一つの活動として限定されます。しかし、礼拝の要素というものは、礼拝以外の時間、すなわち他の活動の中にも常に存在し、全時間を通じて貫かれていなければなりません。礼拝は自発的なものであればあるほど、価値のあるものとなります。

「学ぶ」ということは一事件でなく、継続している過程で、交りと礼拝が正しく行われる時にそれと同



時に、最も効果的に行われていくものです。

子供たちを礼拝、学び、また交りに導いて行くのに最もよい方法は、ごく自然な、そして、自発的な会話です。インフォーマルな形式ばらない会話によって、子供も自由に語り出すでしょう。この会話は、教師が子供たちに何かを注入するだけでなく、かれらの中から思想や反応をひき出すためのよい機会を与えてくれます。授業の中での会話は、このように非常に重要なものです。ですから、授業時間は、ある意味において、歌や祈禱、物語、工作、遊戯などが紹介されていくところの会話の時間（おしゃべりの時間）であるべきだとも言えます。また、物語のための最善の準備は、ごく自然な会話であるとも言えます。そして、また、クラスの最後の締めくくりをする最も良い方法も、会話によって物語を思い返してみることでしょう。

授業はどのようにして始めたらよいか、まず最初に何をすべきか。それから、次には何をすべきか。こういう質問に対して、最も良い答は、最初に子供がしたがることは何か、それから、次に子供がしたいと思うことは何か、と質問することによって出てきます。授業の計画をたてる際に、わたくしたちは、子供たちの立場から考えてみなければなりません。子供たちの欲求と学課の目的とするものと、備えられている教材、それから利用できる種々の活動などを合わせて、授業の計画をわたくしたちはたてるようにするのです。授業全体については、先に様々の計画をたてて考えてみたので、ここでは聖書の物語だけにについて学んでみます。

## 聖書の物語

### 一、注意

子供たちがかもし聞いていないなら、話をすることはできません。ですから、わたくしたちは、まずかれらの注意をひかなければなりません。そして、その注意を物語の終るまで、保ち続けなければなりません。そもそも物語というものは、子供たちの注意をひくものです。子供たちは生まれつき、話が好きなのです。しかしながら、子供たちの注意を捕え、物語の中にかれらを導入するきっかけとなる、興味のポイントを見出すことは必要なことです。これはクラスでの会話の中にしばしば出てきます。その際、自然に「それで一つ、聖書のお話を思い出したのだけれど………」と言って聖書の物語にはいっていくことができます。実物教材をもつてきて、物語を始めることも考えられるし、遊戯などの活動を、糸口とすることもできます。

ある教師は、生徒の一人を「先生ごっこ」の先生にさせて、講壇か椅子の上に立たせて、物語をさせて、その子供が話し終えたあとで、「さあでは今度は先生がお話をしましょう」と言って話を始める方法を提案してくれました。教師は物語を語る場合、常にクラス全体の興味と反応に注意して、かれらの注意をひきつけるようにしなければなりません。

もし、子供たちの注意力や興味が失われていくなら、もう一度かれらの注意をひきつけるために何かを

しなければなりません。そのためには物語を一時中断して、何か他の活動をして、子供たちの疲れがとれたところに、もう一度物語に戻ってくるようにする必要があります。その意味で、物語の中に、その一場面として、肉体的な、しかも、休息になるような活動をとり入れたらよいのです。たとえば、ヨシユアがエリコを攻めた時の物語において、子供たちにエリコの行進をその場でさせることは、決して物語の邪魔にはならず、かえってよい結果をもたらすでしょう。ペテロが監獄の中に入れられた時の物語でも、子供たちに夜、獄の中で寝ていた時のように腕枕をさせて、しばらく休ませることにより、彼らの疲れを軽くすることができます。その他方法はいくらでもあるでしょうが、もう一度ここで言いたいことは、子供たちの注意をひかないならば、話をするとは何の益にもならないといふことです。

## 二、声の調子

教師の声の調子によって、物語の成功、不成功がきまることが多く、一般に、普通の話をする時には、静かな、疲れをいやすような調子の声を使い、物事をよく説明したり、要所を強調するときには、少し上げるのが普通です。

子供たちの興味と注意をひきつけるのも教師の声によります。大きな声は注意をひくかもしれませんが、けれども絶えず使っていると興味を失わせてしまいます。ささやくような声の方が、大きな声よりも興味をひくのは効果的です。また声の調子は一本調子でなく、いろいろと変えるようにしたらよいと思えます。たとえば、物語の中で人々の言葉を言う時には、声の早さや調子を変えて、様々な人を代表するよう

にするのです。また、話がクライマックスに到達した時、あるいは非常に緊張していく場合は、声を高くするのが普通です。適当な時にしばらく間をおくのも、よい結果をもたらすものです。生徒の一人が興味を失って、遠くの方の物事に思いふけているような時にはその子供を直接見て、声の調子を変え、聞かせるようなささやき声で話しかけるなら、その子供は自分に語りかけられているのだということ意識して、もう一度、興味をとり戻すようになるのです。

## 三、ゼスチャー

声の調子と非常に密接な関係をもっているのが顔の表現と手のゼスチャーです。人間はこれだけで非常に多くのことが表現できるのです。高い木を表わすのには、頭よりも高いところまで手をのびして示すことができますし、大きなものは腕を広く広げることによって示すことができます。やさしいということは眼や顔に表わすことができますし、おこったり、喜んだりする他の感情も顔や体で表わすことができます。適当なゼスチャーを使うことによって、物語の興味は倍加してきます。しかし、話をする前に鏡の前でゼスチャーをつけて、練習をして、そのゼスチャーがわざとらしいか、それとも、ごく自然だから、これならやった方がよいか、という点をはっきりたしかめてから実行するくらいの研究心がほしいと思います。

## 四、言葉使

話をする時の言葉の使い方は、大変大切です。幼稚科の教師は子供たちの知っている言葉の数は限られ

ていることを覚えて、かれらの理解できる範囲内の言葉で語らなければなりません。しかも、その物語を生き生きと話さなければなりません。これは決して新しい言葉を使ってはいけないということではありません。時には新しい言葉を使ってもよいのですが、その場合には、話す前にその言葉の意味を説明してあげることが必要です。新しい言葉を使ったなら、一度でやめずに物語の中で何回も使って、子供たちがその新語をよく覚えて、自分のものにするようにさせるべきです。幼稚科の子供たちは新語を学ぶのが好きですし、大胆に間違っても平気で使っていきますから、注意深く、正しく教えるようにしてください。

## 五、強調 点

どんな物語にも強調する所と、しなくてよい所があります。ですから、話をする時にも始めから終わりまで、一本調子に使ってはいけません。強調すべき所を強調することによって変化が生まれ、また興味がわいてくるのです。教師は幼稚科の子供たちが、どのようなことに興味をもつか、よくわきまえて、かれらが物語を身近に感じることができるよう強調するべきです。物語の内容でも、特に彼らが好む点を重視して強調することもできます。強調する所は声の調子、ゼスチャー、顔の表現、繰り返すなどによって示すことができます。さらにそれは工作やその他の活動によって、強調することができます。もちろん、その強調点は、その学課から自然に出てくる真理であって、こじつけであってはならないことは言うまでもないことです。

## 六、想像力

前に述べたように、幼稚科の教師にとって、想像力は無くてはならない大切なものです。聖書に記されている物語は、ほんの要点だけで、細かい点は記されていません、しかし、おとなは、この骨子におとなの考えで種々の細かい点を推測して、霊的な意味をはっきり握ることができます。しかし、子供には、それはできません。ですから、わたくしたちは、聖書の話の子供たちの言葉を使って、理解できるようにするだけでなく、かれらがよく理解できるように細かい点まで補って、話してあげることが必要なのです。これは、わたくしたちが聖書に書かれている物語から離れてもよいということではありません。

ある信仰の人々は、聖書は神のことばである、と信ぜずに、自分たちの勝手な考えをもって、神のことばを解釈しようとしますが、わたくしたちは、聖書の物語の骨子の中で、聖書に記されていない細かい点を想像力を働かせて補足していただくのです。ここでも教師の声の調子や、ゼスチャーが大きく価値を左右するのです。

## 七、創作力

物語は決して暗記して、そのままクラスで忠実に再現するということではありません。クラスで本から読みあげるなどということはもってのほかです。話は自分で作った創作のように話してあげるものです。物語の中に、教師自身が入り込み、一つになって語るものでなければなりません。教案に示されている物語

は、ただの見本で、物語を話す前によく読んで研究しておくものです。教師は教案にだけ頼らずに、自分の言葉で必要なところはさらに細かく説明し、その場合に適したように話していくべきです。違ったグループの子供たちには、違ったように話さなければなりません。動物の話をするのにも、都会の子供と田舎の子供に同じように話すことはできないはずで、わたくしたちは自分の受持の子供をよく知って、かれらの理解力を理解し、かれらが理解をし、また興味をもつように指導していく必要があるのです。

#### 八、実 際 性

前にも言いましたように、物語には目的がなければなりませんし、霊的なポイントがなければなりません。それは強制されたものでも、こじつけであってもなりません。学課の流れから自然に湧き出てくる、無くてはならない真理でなければなりません。わたくしたちは物語の終りに、実際の勧めをしてその物語の真理が子供たちの日常生活に應用されていくように指導しなければなりません。そして、子供たちが家に帰っても、その真理を絶えず思い出し、それに従う気持をもつようにしてあげるので、彼らの中には、神のことが植え付けられるだけでなく、かれらを一生涯導いてくれるクリスチャン生活の習慣が作りあげられねばならないのです。

#### 九、例 話

教える時には簡単な、しかもはっきりした例話を使うようにして下さい。これは部屋に窓を作るような

もので、物語をぐっとひきたてるのです。ですから、その日の聖書の話にあまり類似していない、日常生活にあるような、物語を見つけて、学課の中心思想を教えこむのです。このためには、教えようとしているところの霊的な真理を説明する絵や、物語、事件や実物教材などを常日頃から心がけて捜しておくのです。子供にとって抽象的な真理は、非常にむずかしいものですが、かれらがすでに知っている物事を用いて、具体的に教えてあげるならば、かれらも理解できるのです。適当な例話こそ、この働きをするものです。

#### 十、種々の活動の利用

繰り返し言うように、日曜学校では黒板書き、のぞき箱、紙芝居、その他の視覚教材、砂箱、実物教材、絵など、あらゆる方法を十分に利用すべきです。そして、その日の学課の主題を強調するような内容をもった工作を、はさみや、のり、クレヨンなどを使って、おこなうようにし、また、その線にそった遊戯や音楽を大いに取り入れて、各方面から、一つの真理を打ち込むようにするべきです。

## 第八章 礼 拜

熱心な異教徒たちは、子供たちも神社仏閣に連れて行き、かしわ手を打たせ、あるいは頭を下げさせて礼拝の習慣を育てようとします。わたくしたちは強制的に子供たちに頭を下げさせるようなことはしたくありません。しかし、かれらが、すばらしい真の神に対して、一生涯、真実であり、心からの敬虔な礼拝を捧げていくような人となるために真の礼拝を実際に行い、また、理解するように導きたいと思えます。

### 幼児の礼拝の可能性

小さな子供も、礼拝をすることができるとでしょうか。かれらは、自分自身の気持を礼拝の中に表現できるのでしょうか。果して、この幼い心は、神の前に心からの讚美と礼拝、敬虔さをもって、すがっていくことができるのでしょうか。

この答えは、「然り、できる」ということです。かれらは、もちろん、おとながするような型に従わないかもありません。が、かれらは、かれら自身の方法で、真実こめて、心からおこなうのです。神が、すべての人の心の中に与えられた、神を礼拝する原則、というものは、小さな子供の中にもちゃんと存在し

ているのです。それはまだ完全に発達してはいません。この性質、能力はわたくしたちの指導と激励を待ち受けているのです。かれらの生命は、だれが教えなくとも、神の存在に対して目を開く瞬間を経験するのです。ですから、愛をもって賢明な指導をし、かれらの礼拝したい欲求を導いていくなら、かれらは強く立派になり、しかも、より多くのよい実を実らせ、神を喜ばせるものとなっていくに違いないのです。

### 子供の礼拝方法

子供たちをじょうずに真の礼拝へ導こうと努力する時に、まず、わたくしたちはどうしたらかれらの心に真の礼拝を示すことができるのだろうか、それには何かよい方法がないものか、と考えるでしょう。ここに子供たちを礼拝に導く二つの方法を考えてみましょう。

#### 一、自然を通して

子供たちは自然の美しさを見る時、直ちに反応を示します。これはまた、かれらを礼拝へ導く道なので、宣教師たちは、ジャングルの中の未開人たちに神を紹介する一番簡単な方法は、まず川を指し、木を指し、空の星などを指して示す方法だ、と言います。それら自然界のものを示してから、それを造られた神について語っていくのです。「神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造この

かた、被造物において知られて、明らかに認められるからである。……」(ローマ一・二〇)、子供たちは、夜空を見る時に、あるいは、川のそばに坐って小川の流れを見ている時には、それらを造られた神をすぐに理解することができます。自然界のすばらしい物事を注意して見ている子供たちに、わたくしたちは、神がそれらを造られた。だからわたくしたちは神の愛と、わたくしたちに対するみ守りのみ手に対して感謝をし、礼拝を捧げるべきである。と指摘してあげるだけでよいのです。自然はかれらを礼拝するように導いてくれます。

## 二、信頼と祈禱を通して

小さな子供たちは、簡単に神に頼り、信仰的な物事を信ずることができません。小さな子供たちは、大変信頼深いのです。かれらはすぐに手を伸ばして両親の手を握り、一切の愛と信頼をゆだねるといふことを常にしているのです。ですから、かれらは両親にするのと同じように神を見上げて、天の父にすべてをゆだねることが楽にできるのです。実際に、小さな子供たちの信仰は、あまりにも心のこもったものですから、わたくしたちが、自分のするべきことをしたならば、神も働いてくださる、などというような余計な説明をする必要はありません。

ある教師の子供が、玩具の自動車をほしがっていました。おかあさんは「うちではとてもそんなもの買えないのですよ。だから、神様に与えてくださるようにお祈りしてごらんさい」と、言いました。その

子供は、単純に祈りました。そして祈り終ると飛び上がって「わあーい、イエス様は、今すぐ与えてくださる」と、言って喜び躍りました。おかあさんはそれを見て、大変驚き、また、どうしようかと心配しました。ところが、次の日になると、全然予期しない人から手紙が来ました。そして、その中に自動車を買うのに十分な金額が同封してありました。母親はこのようなことを予期していなかったのですが、子供は信じていたのでした。神は子供の信仰を尊んで、手紙を送って下さったのです。神は幼児たちが信仰と祈りをもって、神を尊ぶようになることを願っておられます。この単純な、信じやすい子供たちを眞の道に導くということは、わたくしたちにとって、何というすばらしい特権でありましょうか。

## 三、聖書を通して

聖書からある部分を読むことによって、教師は子供たちに神様がかれらに語りかけているということを感じさせることができます。みことばが語られる時に、神のみ霊が、臨在を現わして働いて下さいます。子供たちは、すぐにそのことを感知して、み霊に対して心を開き、心の底から神を礼拝するのです。聖書の物語を聞くと、すぐに自分の生活と想像の世界でその通りに行なって、神を信じ、また、礼拝するようになります。子供たちは物語を聞く時には、いつも自分がその物語の英雄になったつもりで考えていくのです。ですから、かれらはダビデと一緒に心の中で、神に讚美を捧げたり、サムエルと共にすべてを捧げて神に奉仕する生活をするということを自然にやっています。

#### 四、イエスを通して

小さな子供たちは、イエスによる新生などと言っても、当然理解できませんし、キリストに関する教理的な真理も理解することはできません。しかし、わたくしたちがイエスを救主として感じ、愛し、心からの叫びを訴え、頼りきっていく気持、その態度を感じることができているのです。ですから、わたくしたちは、かれらに、イエスは今も天で生きており、わたくしたちの一番よい友であることを、理解させることができるのです。そうすれば小さな子供たちの心も、イエスのすばらしさを知り、かれを愛し、かれに迫っていくようになり、また、イエスを与えてくださった神に対しても、同じように近づいていくようになり、また、わたくしたちが救主を常に高く掲げて見せ、また多くかれについて語るならば、子供たちはイエスを自分たちの友であり、常にやさしく助けてくださるおかたであることを悟り、いよいよこのイエスに心からすがりようになるのです。

#### 五、物語を通して

物語を聞く時、わたくしたちは普通その中の人物と自分たちを関係づけて考えます。幼稚科の子供は、毎日の生活の中であった話でも、聖書の話でも同じように自分と結びつけて考えるのです。この点を利用

して、わたくしたちはまた、かれらを礼拝へ導くことができます。子供たちはじょうずに語られた話を聞いて、すぐに神に対して尊敬と敬虔さを感じ、自然に礼拝をすることができます。

#### 六、絵を通して

だれかが歌を歌っている絵を見せると、子供たちもたいい歌を歌い出します。礼拝をしている人の絵を見せると、子供たちは強く礼拝というものに感じ、反応を示すようになります。想像力の強い子供たちは、その絵に描かれている人々の体験の中にすぐに入り込むことができます。そして自分も同じようにしたいと思うようになるのです。たとえば、イエスの回りに子供たちが集っている絵を見ると、幼稚科の子供たちは、すぐに自分たちもイエスのそばに行ってみたいという気になります。現在、地上ではイエスの姿は見られません。しかし、わたくしたちは、ひざまずいて祈り、礼拝をすることによって、イエスのそばに集ることができるといふことを子供たちに示すのです。晩鐘の絵をはじめ、他の礼拝を示した絵などは、子供たちに、この点を指摘するのに効果があると思います。クリスマス季節には、馬小屋の状況など、降誕の絵を示すことによって、子供たちにキリストがすぐ近くにおられ、かれらもキリストのそばに行き、キリストに話しかけ、キリストに讃美を捧げることができるといふことを感じるようにさせてあげるべきでしょう。

## 七、音楽を通して

礼拝の空気を備えた音楽を聞くことによって、子供たちの心はひとりて神を礼拝するように導かれていきます。オルガンを静かにひくだけで、礼拝の空気がつくられ、子供たちを静めて授業を始めることができます。おとなの集会で礼拝の空気をつくるために、音楽が多く用いられるのですから、子供にも効果があることが当然考えられます。このことに気付くオルガニストは、静かに、しかも美しく、礼拝の空気を込めてひいてくれます。

ある日曜学校で、幼稚科の子供たちがクリスマス・ツリーを見ながら立っていました。オルガニストは十二月の音楽としてきめた「きよしこの夜」を静かにひき始めます。だれも一言も語りません。けれども幼稚科の教師たちは、子供たちが皆、この音楽を聞きながら、幼な子イエスを礼拝しているのを感じました。音楽が終わった時に、一人の子供が「羊飼たちがいました」というところを読んでちょうだい」と言いました。その子供は聖書の中からクリスマスの話をもう一度聞きたいと思ったのです。音楽はこのように子供たちを神の言葉に導いていくのです。

## 第九章 礼拝への導入

ここに、教師はあらかじめ幼稚科の子供たちを礼拝に導入する計画を立ててよいものだろうか、それも、授業が進むにつれ、礼拝に適当と思われる時期が熟した時に、礼拝に導くようにしたらよいのだろうか、という問題があります。

### 一、礼拝の準備

この問題はどちらか一方であると決定すべきものではなく、両方とも可能性があるのです。わたくしたちは、確かに授業の中に礼拝をもつことができるように準備をするべきだと思います。注意深く礼拝の間を計画し、準備する教師こそ、予期しないような機会が到来しても、それを上手に応用していくことのできる教師です。

教師はまず、子供の性質についての知識、すなわち、児童心理学を土台とし、幼稚科の子供たちが示す一般的反応を土台として計画をたてるべきです。もちろん、時にはそのように計画した計画が思うように行われないことがあるでしょう。しかし、その代りの、途中で補なった計画が成就していくのですから、



それはそれで、目的を達成したことになります。

しかし、あまり注意深く計画をたててしまうと、子供たちを強制的に礼拝させるような不自然なものになってしまふ危険性があることを考えなくてはなりません。子供たちの反応は、教師の暗示などによって左右されるものであってはなりません。神に受け入れられる真実の礼拝は、真の、自然に心から湧いてくるものです。ですから、計画のための計画となつて、教師があくまでその計画の実行を固執するようでは困るのです。子供たちの心が素直に主の前に開いてくるまで、じつくりと忍耐をし、祈りをもって待つ心構えが各教師に必要なだと思います。

## 二、予期しない機会

注意深い教師は、ほんのちょっとした物音を捕えて、子供たちの目と心を天の父に向けさせることができます。小さな子供たちは、神の臨在をそば近く感じる事ができ、神の御霊の働きに対して、すぐに反応を示します。かれらは礼拝においても、感謝を捧げる時にも、素直に卒直に表現します。かれらはおとななら普通意識しないような、ごく普通のことであるミルクや子猫や、自分たちの手や足について感謝をします。この単純な感謝を、わたくしたちは無視することのないように、かえって励ましてあげ、人生の嬉しい体験を天の父と関係づけて考えるようにさせ、神の前にひざまずいて礼拝を捧げるように導いてあげるべきです。

実際問題として、先に述べたように、わたくしたちは、子供たちを礼拝に導入する方法をあらかじめ計画し、途中で予期しない機会が訪れた時には、それも利用していくようにしなければなりません。そこで、実際におこなわれる礼拝活動を少し考えてみたく思います。

このことについては、すでに礼拝の方法のところでも簡単に語りましたが、その方法をどのように使つて子供たちを神に導くべきかを考えてみましょう。

## 三、クラスにおける会話

教師は、クラスの中での会話を導いて、子供たちが神の臨在を意識するようにしていくべきです。太陽の光が窓からさしこみ、床の上に何かのかげができ、窓の外には花が咲き、机の上には聖書がある、というような状況の中で、わたくしたちは、そこにある一つ一つのものを用いて子供たちの心を主に向けさせることができます。子供たちの方から、何か糸口になるような質問をしてくることもあります。たとえば、子供が、「神様は、今教会にいらっしゃるの?」と聞くかもしれません。それに対して、「そうですね、今、目には見えませんが、神様は、『みんなが神様を礼拝してくる所には、いつでもいます』と約束してくださったのですよ。もし、静かにじつとしていたら、わたくしたちの心の中に神様のいるのを感じる事ができますよ」と答えたらどうでしょう。子供たちは物語の途中で種々の質問をしてくるかもしれませんが、その質問が、かれらを神のもとに導くいとぐちともなるのです。教師がクラスの中で

の公話を指導できるように、聖霊が豊かな導きを与えて下さるように、祈りましょう。

#### 四、視覚教材

すでにわたくしたちは、自然界が子供たちを礼拝に導入する方法として、非常にすぐれたものであることをみました。神の創造された世界とその中にある数々の不思議を見るときに、だれもが霊的なことに関心をもつようになります。

子供たちをいつも野外に連れ出して、自然の世界を示すことは無理ですが、時には、外にあるものを部屋の中を持ってこることもできます。花や、葉、植物、小動物、昆虫などを部屋の中に持ってきて、神の愛を示し、感謝を捧げるように指導するのです。春には花、秋には落葉、冬には蕾や実、あるいは、雨や雪などで、季節ごとに変化をもたせて、神への感謝を指導することもできます。

また前述したように、適当な絵を用いるのもよいでしょう。キリストの愛を示す絵を見るときに、子供たちは神を愛したくなるでしょう。十字架や降誕の絵などを見せて、キリストが、わたくしたちのためにして下さったことを説明してあげるなら、子供たちはかれに対して感謝を捧げ、また、礼拝をする気持ちになると思います。また、ほかの人が礼拝や讚美をしている絵を見る時に、彼らは自分たちもイエスに対して歌を歌い、愛を捧げていかねばならない、と感じます。もし適当と思われれば、礼拝の中心となるように、正面に礼拝の空気をもし出すような絵を掛けることも、一つの方法かと思えます。その他、数

多くのものを利用して、わたくしたちは神の愛を示すように努力すべきです。

#### 五、祈りの指導

幼児に祈りの指導をする責任は、本当は日曜学校の教師よりも、家庭における両親に負わされているのです。それは、両親は子供とほとんどいつでも一緒にいますが、日曜学校の教師は、一週間に一度しか会わないからです。それにもかかわらず、日曜学校の教師に、この祈りの指導という特権と責任が負わされているのは事実です。たいてい、両親がクリスチャンでない場合には、子供に祈ることは教えません。ですから、日曜学校の教師に全責任が負わされているのです。この点に関して、過去には、一定の祈禱文を暗記して言わせる方法が用いられたこともありましたが、この方法によると、子供たちは自分の力では表現できないことも表現することができません。ですからもしかしたらがその意味を真に理解して言うなら有益な手段だと思います。しかし、同じ祈禱文を繰り返して語っているうちに、あきてきて意味を理解しないならば、特に、無意味な繰り返しになってしまう危険性もあります。ですから、わたくしたちは、子供たちにとただ、祈りを暗記して言わせるだけでなく、自分たちの感情を神に言い表すよう指導してあげるべきだと思います。幼稚科においてもこの自発的な祈りを常に強調する必要があります。最も単純な、食物や、何かの楽しい体験について「神様、ありがとう」という祈りから始めてください。

それには教師自身も、「このおいしそうなリンゴを感謝します」とか「こんなよいお天気の日を下さっ

て伸ばさまゐりがとり」などと言うように常に心がけるべきです。もちろん、このように言う時には、敬虔な態度をとりませんが、何も格式ばった顔をしながら言わなければならぬものではありません。幼稚科の礼拝では、わたくしたちも、格式ばらない、インフォーマルな、そして喜びに満ちた自然な言葉使いをしたいものです。そして子供たちに祈りや礼拝は、ただ寝る前や教会の中だけでするものではなく、いつでもするものだ、という考えを植えつけるようにしましょう。これは話の中で説明したり、あるいは訪問した時などを利用して祈ったり、野外でも、家庭でも、どこでも神を讃美したりして、実際行為で示すことによつて教えていくことができます。

## 六、物語と聖書の利用方法

前にも述べましたように、わたくしたちは、物語をじょうずに語るることによつて、子供たちを礼拝に導くことができます。日常生活の中から注意深く選んだ物語もよいのですが、聖書の物語ならば、なおさら効果的です。また話をする時に聖書を用いて、「これは神様の御本の中に書いてあることです」と説明するならば、子供たちは神が自分たちに語りかけておられるということを、意識して反応を示すでしょう。子供たちが意味をよく理解できる有名な聖句を暗唱させて、神の約束を教え、神がそば近く臨在していることを意識させるのも有益です。

## 七、音楽の利用

礼拝における音楽の価値は、すでに学びましたが、それをどのように用いるべきでしょうか。普通、音楽といえば、オルガンによる音楽になりますが、これは礼拝の空気を作り、また音楽による礼拝をさせるのです。子供たちが歌詞を知っている礼拝的内容をもつ歌を、ただひくだけでも礼拝の空気は作られません。しかし、楽譜どおりひくだけではだめです。オルガニストは目的をもち、その目的が達成されるように、それをひきこなすことができなければなりません。毎日曜日、敬虔な礼拝の態度をとる合図として、静かな音楽をくりかえしひくのはよいことと思います。しかし、一つの音楽をあまり長い間、使用しないようにするべきです。大体一ヶ月ずつ変えた方が子供たちもあきないでよいでしょう。

幼稚科の子供たちに、礼拝的な歌を小声で歌わせるのも非常に効果的です。ですから、幼稚科で歌う歌は、いつも子供っぽい早いテンポの歌に限る必要はありません。遊戯のついた歌もよいですし、嬉しそうなコーラスもよいのですが、荘厳な、そして、深い思想の含まれた礼拝の歌を選ぶことも必要です。古典的なキリスト教会の有名な賛美歌も、もし、その意味をよく説明するならば、子供たちはすぐ覚えて、歌の空気に応じていくことができます。

子供は自分たちの知らない歌を歌いながら、礼拝をするという器用なことではできません。新しい歌を歌う時には、その言葉やメロディーを自然に覚えるだけで、かれらは精一杯なのです。しかし、頭から自然

に流れ出てくるような歌は、かれらの心からもやはり自然に出てくるのです。

時々、子供たちは自分の作った歌を歌い出します。その歌はごく単調で音楽的には何の価値もないかもしれせん。しかし、かれらの中から出てきた賛美と祈りの歌は大切に取扱わなければなりません。教師も、自分の心から湧いてくる簡単な歌をおさえる必要はありません。おとなの人は、それを理解できないし感心しないかもしれせんが、子供たちが喜んで歌ってくれます。こうしてかれらは恐れることなく、躊躇することなく、自然に心の中にある気持ちを神に向けて言い表すようになるでしょう。

#### 八、神への捧げ物

子供たちが日曜学校にもってくる捧げ物は、神に対する愛の捧げ物と考えるべきです。時々、生徒は自分たちが持つてくる献金について、奇妙な考えをもっています。ある子供は、自分たちが持つてきた献金は、神様にあげるのだから何か不思議な方法で天国に送られるのだと考えます。ある子供は、教師が自分たちだけで持つてしまうのだと考えます。ですから、わたくしたちは、簡単にしかも卒直に、わたくしたちの持つてくる献金は、神に対する愛の捧げ物で、神の働きを進めるために用いられるのだ、と説明するべきでしょう。そして、実際にその献金は教会の暖房費や修理費に使ったり、また、きれいなカードや教材を買ったり、その他、種々の必要なことに使われるのだ、と説明するべきでしょう。このような説明は、多分何回もしなければならぬでしょう。小さな子供たちは、すぐに忘れてしまいますし、また、一

回では意味がよくのみこめない場合があるようです。

互いに分け合うということを強調するのもよいことです。子供たちに、神が種々のよいものを与えて下さったけれども、そういうよいものを与えられていない、そのような機会に恵まれていない子供たちも多々いることを覚えて、その幾分かを分けてあげる必要を示してあげて下さい。それは、特に貧しい人々を助ける計画をたてた時とか、あるいは、特別な伝道集会などの計画の時に、説明してもよいでしょう。さらに海外宣教の必要を子供の時から教え、訓練してあげる必要があると思います。その結果、今から十五年あるいは二十年先に、幸いな宣教師が作られることになるでしょう。

子供たちには、しばしば、おもちゃや食物、あるいは洋品などを捧げることの方が献金よりも重大な意味をもっています。たいてい、子供たちは親から献金をもらってきて、それをただ献金袋に入れるだけです。ですから、そこには犠牲の精神はありません。けれども自分のおもちゃを他の子供と分け合うということは、大変なことであるのです。その意味から言って、貧しい家庭や気の毒な子供たちを助ける計画をたてた場合、それは大きな価値をもっているのです。

#### 礼拝の条件

幼稚科の子供たちを礼拝に導くにあたって、礼拝がかれらの心から、真実をこめて行われるものとするために、最大の目標をおくべきです。そして、この真実さが、さらに自発性を伴うものとすべきです。本

当の礼拝は強制されるものではありません。子供たちは自分の心や思いを率直に言い表わします。かれらは神に対して愛を示し、心の目を彼に向けて礼拝を捧げるのです。子供たちのとる方法や形式は、あまりにも唐突かもしれませんが、神はかれらの心からの表現を喜んで下さるのです。

子供の礼拝のもう一つの特徴は、神に対する彼らの自然な近づき方です。イエスが、神の国に入ろうと思うならば幼児のようにならなければならない、と言われたのは、多分このためでしょう。子供たちは単純に信仰をもって天の父から祝福を頂くことを極く自然に信じて期待していくのです。これは幼稚科の子供のすばらしい点だと思えます。

最後に、子供たちを、礼拝させたり神に対して讃美を捧げるように指導する際、それを日常生活の一部分である実際の体験として教え示してあげなければなりません。子供たちはそれを希望しており、また、それならば理解することができのです。わたくしたちは、子供たちの現実の生活にまで入りこんで、神と神の愛が彼らの生活に重要な、そして現実的なものとなるように示してあげなければなりません。こうして実際のな意味において、日々の生活で神にあらゆることを通して、礼拝を捧げることができるようになるならば、それは神にとって、尊いものであり、幼児の生命にとっても貴重なものとなり、これこそ、だれも奪うことのできないものとなるのです。

## 第十章 組織と訪問

第四章の中でわたくしたちは職員について語りました。その際には、職員の関係と義務について語ったのですが、今度は、さらに幼稚科の働きを効果的に行うために必要と思われる組織の面について考えてみたいと思えます。

### 組 織

幼稚科において、わたくしたちは必要以上の組織をもちたくありません。しかし、効果的に仕事をしようとするならば、ある程度の組織をもたねばならないのです。わたくしたちは働きに必要な最低限度の組織をするのですが、その組織も、より効果的な働きができるような組織でなければなりません。

#### 一、クラス

幼稚科の中に、いくつかのクラスがあって、はじめて一つの科という単位ができるのです。その際に

も、幼稚科では子供たちがまだ小さいのですから、あまり形式ばった組織をもつ必要はありません。教師が一切の活動の中心となり、そこで行われることの指導を一手に引き受けるべきです。もし、助手か、一緒にクラスの責任をもつてくれる教師がいて、授業を分担したり、子供たちの世話をしたり、記録を整理したり、音楽の指導をしたりしてもらえらば、たいへん助かります。教師と助手が協力することができらば、そのチーム・ワークは多くの働きをなすことができるでしょう。たとえ助手がいたとしても幼稚科のクラスはあまり大きくてはいけません。幼稚科のクラスの構成人員は六名が理想的です。多くの日曜学校では、部屋数が足りなかったり、あるいは、教師の数が足りないために、これよりも大きなクラスになっているでしょう。しかし、たとえ一人二人の助手がいたとしても、一クラスに十二人以上入れるべきではありません。クラスがもし、大きくなった場合には、そのクラスを半分に分けるのです。幼稚科では性別をする必要はありません。クラスを分ける場合には、四才児と五才児というように年令で分ける方がよいでしょう。それは、この時代には、性別の差よりも年令の差にみられる相異の方がはるかに大きいからです。

## 二、科

この本では幼稚科と幼稚科のクラスをほとんど同じもののようにして取り扱ってきました。たしかに幼稚科の年令の子供のクラスが一つしかない場合は、科とクラスとは一つであるわけです。しかし、このク

ラスがふえて幾つかのクラスに分かれた時には、クラス、すなわち科ではなく、幼稚科の中の一クラスということになってきます。そのように、クラスがふえてきた時には、必要に応じて働きを十分にするため責任者を置くようにすべきですが、あまり大勢になると、それぞれ勝手な方向に進んでいく危険性がありますから、最低限度にとどめた方がよいでしょう。幼稚科のクラスがいくつかで進んできた時には、幼稚科だけで礼拝をするホールを持つように計画したらよいでしょう。幼稚科だけで礼拝をしたり、遊戯をしたりして、その後、各クラスに分級していくというようなことが実行されるべきです。

小さな科ならば、あまり多くの役員は必要ではありません。主任と書記、オルガニストだけで仕事は十分にできるのです。オルガニストは、だれか教師が兼任してもよいのです。この二人は科の実際の働きの責任をもつのですから、それだけで十分働きがあるのです。科が大きくなって、種々の働きのために役員が必要となれば、その都度、加えたらよいでしょう。書記が助けを必要とし、名簿だけを責任もつ人が入用ならば、名簿書記をおいてもよいでしょう。また、主任が忙しすぎるなら副主任をおいて、問題児たちを驚かせるような取り扱いだけを専門にやらせるように任命してもよいと思います。

## 三、他の科との協力

幼稚科は、日曜学校のほんの一部分にすぎません。それはすぐ下の嬰兒科と、すぐ上の小学部下級科と関係をもっています。特に、進級日にはこの二つの科との関係をはっきりしなければなりません。ですか

ら、進級日の前には、幼稚科のだれかが嬰兒科のクラスと親しくなっていて、どの子供が進級するのかよく調べ、また、その子供たちと親しくなっていて、進級する際に恐怖を感じさせないように導くようにすべきです。同様に、小学部下級科のだれかに幼稚科の中に来てもらって、小学校に入学して進級する子供たちと親しくなってもらうようにするべきです。幼稚科の教師は、他の科の教師たちと常に親しい関係をもち、互に協力しあっていて、進んでいくように心がけなければなりません。互に常に尊敬し合い、信頼し合い、助け合い、そして日曜学校全体をより上げていくという態度がほしいものだと思います。

## 訪 問

### 一、欠席者の訪問

日曜学校全体でも、幼稚科でも常にないがしろにされながら、しかも、もっとも重要だと思われるのが訪問です。欠席した子供をそのまま放置しておくことによって、わたくしたちは日曜学校にきた子供たちの大部分を失ってしまいます。もし、わたくしたちが時間をさいて欠席者を捜し求め、連れ戻すように努力するならば、落伍者の数は相当減ることでしょう。わたくしたちは、偉大な羊飼であった主イエス・キリストが、失われた羊に対してとられた態度を模範として、欠席者に迫って行かねばなりません。かれはその小羊を肩にのせて、失われたものが見出された、といって喜ぶことができるまでは、帰って来ません

でした。

この働きのためには、幼稚科の職員全員が協力しなければならぬと思います。その順序として、まず、欠席者がだれかを調べること、第二に訪問の担当をきめること、そして第三に欠席者の訪問をすることが考えられます。この場合に、最上の方法は、教師自身が訪問することです。ハガキを送っても小さい子供にはあまり意味がありません。しかし、教師が訪問してくれることは、子供にとっては、たいへんなことで、子供たちはきつと日曜学校に行こうという気持ちを起こすに違いありません。それはまた両親に対しても良い印象を与え、両親の日曜学校に対する関心と協力を得る土台ともなるでしょう。

訪問がどうしてもできない場合、ハガキを出すよりは手紙か、あるいは電話をかける方がまだよいと思います。しかし、なんといっても個人的に訪問するのが最善の方法です。ですから、教師が自分で訪問できない場合には、だれかが代りに訪問するよう手配をするべきだと思います。科が大きい場合には科の主任が、子供たちと、またその両親を訪問するようにしたらよいと思います。訪問が終った時には、必ずそのむね報告を提出することを忘れてはなりません。そのためには、訪問用のカードなどを作ったらよいと思います。

### 二、新入生、または入学候補者の訪問

わたくしたちは、毎年、日曜学校に入学する子供たちのリストを作っておくべきだと思います。これは教師だけではなかなかできませんから、他の人々にも手伝ってもらいます。そのためには、日曜学校が教会

教える秘訣 幼稚科編

©1963

1963年4月10日 初版発行

1969年5月1日 第二版発行

1979年12月1日 第三版発行

定価 700 円

著者 ハート R. アームストロング  
メアリー V. プライアント  
訳者 伊 藤 顕 栄  
印刷 ときわ印刷有限公司

発行所 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団  
日曜学校部

東京都豊島区駒込3丁目15番20号  
郵便番号 170  
振替東京 0-10877 電話 03(918)0497

全体で近所の調査をしたらよいでしょう。その結果、日曜学校に行っていない幼稚科の年令の子供たちの名前がわかります。その子供たちを入学候補者のリストの中に入れます。また教会に来ている家族の中に日曜学校に来ていない子供たちがある場合もありますので、その子供たちも候補者のリストに入れます。また、教師が訪問をした際などに、見出した子供たちの名前もこれに加えることができます。候補者のリストができた時には、ちょうど、欠席者の訪問のように、教師がこれら家庭を戸別に訪問して、日曜学校に加入をすすめるのです。この方法によって子供だけではなく、その家庭、両親までも教会に来るようにした例も少なからずあります。

欠席者や候補者の訪問を、教師やそのために特に選ばれた訪問者たちが協力して、確実に実行していくならば、幼稚科はいよいよ栄えて行くことだと思います。わたくしたちは大きな幻をつかんで、幼児たちを捕え、キリストに導くように心がけて行こうではありませんか。